寛政四　壬子年　西暦1792年　支那乾隆五十七年

正月三日　(露暦)幸太夫等イルクツク著。【二三】
正　月　(陰暦)この頃高山正之熊本にあり、頗りに當代の學者と往來す。【九八】
二　月　この月正之薩摩に入る。【九八】
三　月　正之鹿兒島に至り五月下旬まで滯在。【一〇〇】
五月廿日　(露暦)幸太夫等イルクツク出發。【二三】
六月十九日　(同上)幸太夫等ヤクーツク著。【二三】
七月二日　(同上)幸太夫等ヤクーツク發。【二三】
八月三日　(露暦)幸太夫等オホツク著。【二三】
七　月　中旬正之日向にあり、▲廿八日、再び熊本に入る。又岡に向つて去る。【一〇〇】
八月一日　正之また熊本に入る。▲三日。貴津湖に遊ぶ。▲廿一日、正之山鹿方面に向つて去る。【以上一〇一】
九月十三日　(露暦)幸太夫等オホツク發【二三】▲廿五日。幸太夫等を載せたるエカテリナ號今日オホツク港出帆。【二三】
十月十八日　(露暦)エカテリナ號國後島に著。▲廿一日。根室港に入る。今日日本暦九月三日なり。【二六】
十月十一日　露使松前氏に書を送り直接幕府と交渉せんことの傳達を申入る。【二八】
十一月二日　幕府目付石川、村上等を露艦應接の爲派遣【二七、二八】▲是月。幕府海邊防備令を出す。【二七】
十二月四日　幕府松平定信に江戸近海巡視を命ず。【二七】▲廿四日。松前藩應露使の狀を江戸に送致したること、及び露使接待の爲特に吏を派したる旨を露使に告ぐ。【二八】
是　歳　本多利明蝦夷地經營に就き幕府に上表す。【一五】

寛政五　癸丑年　西暦1793年　支那乾隆五十八年

一月十日　(露暦)幕使根室に著し、露使を新年宴會に招ぐ。【二八】
三　月　松平定信江戸近海巡視。【一三】
四月一日　南部藩兵松前著。▲十二日。津輕藩兵松前著。【以上二九】
五月十一日　(露暦)幕吏數名露使に會し、陸路松前に赴くべき旨を告ぐ。【二八】
六月二日　(露暦)松前藩應露使の乞を納れ、海路松前に赴くを許す。▲十六日。露使根室を發す。【以上二八】
七月十日　(露暦)露使厚岸に入る。【二八】
六月八日　(露暦七月十六日)露使函館著。▲九日。函館奉行露艦を訪問す。【以上二八】▲十七日。露使松前に向ふ。▲廿日露使松前著▲廿五日。幕吏石川、村上等松前濱屋敷にて露使ラクスマンと會見。▲廿七日。幕吏露使とまた會見信牌を與ふ。【以上二九】▲今日高山正之自殺。【一〇四】▲廿八日。露使ラクスマン等に麥、蕎麥、鹿肉等を與ふ。▲今日露使松前を發す。【以上三〇】
七月四日　露使函館著。▲十日。ラクスマン等乘船。▲十六日、露艦出帆。【以上三〇】
九月八日　(露暦)ラクスマンオホツクに歸る。【三二】
十一月廿一日　仙臺の舟子津太夫等石卷港を出帆し漂流して遂に露國に至る。【三七】

寛政六　甲寅年　西暦1794年　支那乾隆五十九年

四　月　(露暦)露使ラクスマン等露都に歸る。【三二】

寛政十　戊午年　西暦1798年　支那嘉慶三年

二月廿七日　書院番頭松平忠明に蝦夷地警衛の事を命ず。【五二】

八　月　本多利明西域物語を著す。【一五】

是　歳　御目附渡邊久藏、御使番大河内善兵衛、御勘定吟味役三橋藤右衛門に蝦夷地巡見の事を命ぜらる。【五二】

寛政十一己未年　西暦1799年　支那嘉慶四年

正月十六日　御勘定奉行石川忠房、御目附羽太正養に蝦夷地警衛の事を命ず。【五二】

是　歳　米露漁業會社再興。【三二】

寛政十二庚申年　西暦1800年　支那嘉慶五年

二月廿三日　柴野栗山蝦夷問題に就き平山行藏に會見を求む。行藏肯かず。【七七】

八月十六日　栗山また行藏に會見を求む。行藏また肯かず。▲廿一日。行藏栗山を訪ふて對蝦夷問題を語る。【以上七七】

是　歳　米露漁業會社ノルフオク、サウンド、コロンビヤ河口及びボデカ灣に漁區を擴張す。【三二】

享和二壬戌年　西暦1802年　支那嘉慶七年

二月廿三日　戸川安倫、羽太正養を蝦夷地奉行とす。【五四】

五月十日　戸川羽太兩人を箱館奉行とす。【五四】

七月廿四日　東蝦夷地上知。【五四】

享和三癸亥年　西暦1803年　支那嘉慶八年

正　月　（露暦）露國日本遣使の議成り、皇帝の裁許を得。【三三】

二月廿五日　富田大淵死。【九九】

五月末日　（露暦）リシアンスキー倫敦に於て船二艘を買ひ今日倫敦出發。【三三】

六月十日　（露暦）露國レザノフを文事秘書官とし、日本との通商事務を管せしむ。【三三】▲三十日（同上）今日附を以て日本に送る露帝國書を草す。【三六】

七月廿日　（露暦）レザノフを乘せたる露艦クロンスタット出發。【三七】

八月廿三日　（陽暦）英人ステワードの船長崎入港。【八一】

九月八日　英船フレデリック、フアン、ベンガル號入港。【八一】

文化元甲子年　西暦1804年　支那嘉慶九年

九月四日　異船長崎沖合に來るの報あり。【三八】▲六日。（露暦九月廿六日）露艦長崎に入る。【三七、三八】▲七日。長崎奉行露艦に新鮮の食料を贈る。【四〇】▲十日。通詞等露國書和解を上る。【四二】▲（露暦十月四日。）大形日本船露はれ、露船を監視す。▲（同五日。）ナデシダ號パペンベルグ島内灣碇泊。▲廿七日。長崎奉行より露使上陸嘆願に就き幕府に處置方伺ひ書差出す。▲（露暦十月十七日。）長崎奉行使者レザノフを伴ひ上陸散歩せしむ。【以上四三】

十月五日　露船を太田尾に繫碇。▲九日。また繫碇。▲十八日レザノフ上陸願出に就き長崎奉行より再び書を幕府に差出す。▲廿二日。露船を港内に引入れ、警固の備へ過半を減ず。【以上四三】

文化二乙丑年　西暦1805年　支那嘉慶十年

正月十六日　幕府より長崎奉行宛、目附遠山金四郎差遣及び其他の下知狀を發す。▲十九日。右下知狀長崎奉行に達す。【四四】

二月晦日　目附遠山金四郎長崎に著す。【四五】

三月六日　目附遠山金四郎及び長崎奉行等レザノフと會見。【四五】▲七日。再會見。【四八、四九】▲九日。三たび會見。▲十

日右の結果を幕府に報ず。【五〇】▲十九日。露船歸帆。【五〇】▲廿五日。遠山金四郎長崎發歸東。▲廿七日。長崎奉行成瀬因幡守また歸東。【五〇】

文化三 丙寅年 西暦1806年 支那嘉慶十一年

正月廿六日 幕府異國船渡來につき布達。【五〇】

九月上旬 露人樺太を侵し、クシュンコタンに上陸滯在約一ヶ月、十月初旬出帆。【五五】

文化四 丁卯年 西暦1807年 支那嘉慶十二年

三月十一日 露船樺太に近づき遂に上陸侵略して歸る。【五五】▲廿二日。蝦夷地全部上知、幕府直轄領とし、松前若狭守には別に九千石を賜ふ。▲廿六日。松前美作守に永蟄居を命ず。【五四】

四月十日 露人樺太侵略の報箱館奉行所に達す。今日松前氏兵を出す。▲十一日。右の旨を江戸に報じ、また南部津輕の人數を招ぐ。▲十八日。また右の件を江戸に注進す。【以上五五】▲廿九日。露人擇捉島シャナに上陸し會所を襲ふ。【五六】

五月一日 シャナ上陸の露人掠奪開始、明日に及ぶ。▲三日。露船出帆。▲十八日、箱館奉行羽太安藝守露人のシャナ侵掠詳細を幕府に報ず。この日幕府秋田庄内、仙臺諸藩に蝦夷加勢を命ず。▲廿五日。秋田兵五百人出發。【以上五六】

六月一日 庄内兵三百餘人出發。▲四日。南部信眞に出兵を命ず。【以上五六】▲この日、遠山金四郎、小菅猪右衛門、村上大學等に蝦夷地御用を命ず。▲六日。堀田正敦に蝦夷地御用を命ず。【以上五七】▲七日。近藤重藏にも蝦夷地御用を命ず。▲今日露人先きに捕へたる蝦夷人八人に賞賜を乞ふの狀を携へしめ、利尻島より宗谷に歸らしむ。【五八】▲八日。中川飛騨守に正敦と同行を命ず。【五七】▲今日平山行藏蝦夷對策を建議す。【七四】▲十一日。奥右筆石尾彦四郎に蝦夷地御用を命ず。▲今日明日遠山金四郎、村上大學等蝦夷に發す。▲十五日、近藤重藏蝦夷に向つて出發。▲今日堀田正敦等に時服黄金を賜はる。▲廿日。今明日の頃正敦等出發【以上五七】▲廿九日。箱館奉行下役山川喜太郎等先きに露人の送り返し來れる番人等を携へ宗谷より箱館に來る。【五八】

七月 平山行藏再び蝦夷對策を上書す。【七五】

十月廿五日 箱館奉行を松平奉行とし役所を箱館より松前に移す。【五八】

十一月三日 伊達氏に蝦夷出兵を命ず。【五八】▲前箱館奉行羽太正養に逼塞を命ず。【五九】

文化五 戊辰年 西暦1808年 支那嘉慶十三年

正月九日 會津松平氏の兵蝦夷に赴き、カラフト、ソウヤ、シャナ松前等を警固す。▲十五日仙臺兵出發、エトロフ、クナジリ及び箱館を固む。【以上五八】

二月晦日 松前奉行より備向心得の事を仙臺會津の人數に達す。【五八】

四月三日 前箱館奉行戸川安倫の役儀を免ず。【五九】▲是月蒲生君平の山陵志出版。【一〇八】

八月十五日 英船長崎に來る。▲十六日。英船より食料品を求む。即ち之を給與。▲十七日。英船出帆。【七八】▲この日長崎奉

行松平康英自殺。【七九】

十一月十一日　鍋島肥前守に過塞を命ず。【七九】

文化六 己巳年 西暦1809年 支那嘉慶十四年

是歳　蘭船長崎に入る。以來文化十年まで來航せず。長崎在留蘭人大に困窮す。【八三】

文化八 辛未年 西暦1811年 支那嘉慶十六年

六月十日　(陽暦)この頃英人ラッフルス蘭人の長崎貿易を奪ひ取つて代らんとするの野心あり。今日これを上司に建議す。【八四】

五月廿七日　露船クナジリ島ケムライ崎に上陸、米、酒を奪ふ。【五九】

六月四日　露人ゴローウイン等を捕ふ。▲七日露船出帆。【以上五九】

七月二日　ゴローウイン等を箱館に送致し揚屋入りとなす。▲四日ゴローウイン等を究問し、口書を松前に送る。▲八日。右口書を江戸に送致す。【以上六一】

八月廿五日　ゴローウイン等を松前に移す。【六一】

十月十五日　ゴローウイン等嘆願書を出し歸國を求む。【六一】

文化九 壬申年 西暦1812年 支那嘉慶十七年

正月廿六日　松前奉行に命じてゴローウイン等を從前通り囚置せしむ。【六一】

三月廿四日　ゴローウイン等逃走。【六一】

四月四日　ゴローウイン等捕はる。【六一】

八月七日　高田屋嘉兵衛箱館に向はんとしてエトロフを發す。【六二】▲十四日。高田屋嘉兵衛露船に捕はる。【六一、六二】▲十六日。露人クナジリ島センベコタンに上陸し、水を汲取る。南部藩兵砲擊して之を追ふ。【六二】

十二月八日　是より先き嘉兵衛等東蝦加に拘致せらる。今日嘉兵衛露船長リコールドにゴローウイン等放還に努力すべき旨を申す。▲リコールド露國官憲と相談の爲オホツクに赴く。【六三】

文化十 癸酉年 西暦1813年 支那嘉慶十八年

四月十八日　(露暦五月六日)リコールドの露船ディヤナ號アワチャ灣に出で、▲廿三日。出帆。【六六】

五月廿六日　嘉兵衛等國後島上陸、ゴローウイン等釋放運動を開始す。【六六】

六月十九日　高橋三平、柑本兵五郎等國後島に著す。▲廿一日。今日より廿四日にかけて露船長リコールド等に論書の趣を示す。リコールド等承諾、八月再來すべきを約し去る。【以上六六】▲廿七日。英船シャーロット號及びマリヤ號長崎に入る。【八四】

七月五日　蒲生君平死。【一〇七】

八月十三日　ゴローウイン等に豫め釋放申渡。【六六】

九月十七日　リコールド嘉兵衛を通じて釋明書を出す。▲十九日。リコールド等を上陸せしめ、高橋三平、柑本兵五郎等應接す。▲廿六日。奉行服部備後守の名を以て貿易不許可の意を諭す。▲廿八日ゴローウイン等釋放。【以上六七】

十一月三日　英船シャーロット、マリヤ二船長崎出帆。【八五】

文化十一 甲戌年 西暦1814年 支那嘉慶十九年

六月廿三日　シャーロット號長崎再入港。【八六】

十月五日　シャーロット號出帆。【八六】

其二　人物概覽

【ア行】

ア

赤崎海門　名は貞幹、字は元禮また彥禮、通稱源助、海門は其號なり。本と薩摩谷山士にて文字を好み肥後に遊學し、藪茂次郎が門人となり、本府士に列せられ、天明三年太守齊宣の侍讀となり、同八年御記錄奉行となる。寛政五年物頭、同七年敎授御側役格神田聖堂式日講釋を勤め定府となる。又和歌を芝山持豐に學ぶ。文化二年八月江戸に死す。年六十四。遺著海門遺稿あり。【一〇〇】

赤崎元禮　海門に同じ。【一〇〇】

秋山玉山　田沼時代揭出。【九八、一〇一】

會澤安　字は伯民、通稱は恒藏、正志齋と號す。幼より學を好み彰考館寫字生となる。初め留守に班しついで步士となり、又諸公子に侍讀す。數年にして累進して進物番となり、藤田幽谷の後をうけて彰考館總裁となる。後病を得て職を辭し敎授となる。更に郡奉行に擢でられ、小姓頭總敎に轉す。屢〻秩を增して二百五十石となさる。深く烈公に信賴せられ建言啓沃するところ多し。烈公致仕するに及び一たび謹を得て屛居せしが、烈公の再び出づるに及び、また再び祿を賜はる。文久三年死。年八十二。著書中庸釋義、讀論日札等十數種あり。【一〇七】

新井白石　幼字勘解由、長じて君美といふ。字は在中、又濟美といふ。白石は其の號なり。父正清は上總久留里侯土屋利直に仕ふ。明暦三年二月生る。少にして神童の稱あり。後父と共に致仕し、江戸に出で苦學し、天和二年堀田正俊に仕へ、去つて木下順庵の門に學ぶ。元祿六年甲府家宣の儒官となり、家宣の將軍となるや、文事を以て殿中に給事し、かゝて大政に參與す。畫策獻替するところ多し。吉宗將軍となるに及び、退隱典籍を友とす。享保十年五月死。年六十九。【六】

荒尾但馬守　名は成章、成德の子。安永七年七月西城の小性となり、八年四月より本城に勤仕す。寛政六年七月御小納戸となり、九年閏七月小性となる。十年十二月從五位下石見守となる。後但馬守に改め、御先鐵砲頭となる、文化四年十二月羽田正養の後を承けて松前奉行となり、同十年正月普請奉行に轉す。【六一】

青山下野守　名は忠裕、忠高の子。明和五年生る。天明五年七月兄忠講の嗣となり、同九月遺領を繼ぎ、丹波篠山城に居る。十二月從五位下下野守に叙任す。寛政四年七月奏者番となり、五年八月寺社奉行を兼ぬ。八年十一月西城若年寄となる。累進して文化元年正月遂に老中となり、文政十年五月封を增して一萬石とせらる。天保元年八月月番を免ぜらる。【四四】

安藤信明　後信成と改む。信尹の子。寛保三年生る。父信尹の事により封一萬五千石を削られ、五萬石を領し、美濃加納城に住し、寶暦六年五月陸奥磐城平

に移さる。九年十二月從五位下對馬守に叙任し、安永三年奏者番となる。天明元年閏五月寺社奉行を兼ぬ。四年四月若年寄となり。寛政五年八月老職に進み從四位下に昇る。六年十二月侍從となる。文化七年五月死。【五二】

イ　池邊丹陵

名は樸、字は大璞、謙助と稱す。丹陵は其號なり。肥後の人。實は磯田氏。幼より學を好み富田大鳳に學び、諸生の領袖となる。後遂に熊本藩儒醫池邊宗英の嗣となる。寛政四年五月再春館句讀師助勤となり、八年九月御藏米百俵を賜ひ外樣御醫師に召出さる。累進して時習館句讀師、同訓導を經て天保十二年正月御使番に列し、時習館助教となる。又食祿百石に御足增五十石を賜はる。弘化二年五月御鐵砲十梃頭上座となり、三年八月七十七歲にて死す。飽託郡北國妙永寺に葬る。【九九】

石川忠房

實は伊丹勝興が二男、明和元年養父忠國の後を嗣ぎ、大番及び組頭を經て、寛政三年五月御目附となる。四年十一月露人來航のことにより命を奉じて松前に赴き、翌年十月歸る。七年四月御作事奉行に移り、十二月從五位下左近將監に叙任し、九年八月御勘定奉行に進み二百石を加へられ、上野山田郡の地五百石を食む。十年道中奉行を攝す。盡革するところ頗る多し。亦昌平黌重修に與つて功あり。十三年春再び命を奉じて蝦夷に赴き各地を巡視し歸る。文化三年西城留守に遷り、五年小普請支配となる。文政二年再び勘定奉行となり、道中奉行を攝す。十一年大城留守となる。天保七年正月死。年八十二。【二八、二九、三〇、五二】

石橋助左衞門

其家代々和蘭通詞を勤む。長崎の人。明和六年稽古通詞となり。安永九年父助次右衞門の後を嗣ぎて小通詞末席となる。天明七年小通詞となり。寛政三年大通詞に進む。文化元年露使入港の際に當りて應接通辯を勤む。同二年八月別段商法取計掛となり、九月特に席禮を許さる。同五年英船入港の時も折衝の任に當る。文政四年諸通詞立合大通詞を命ぜらる。同九年九月致仕し、天保八年七月死。長崎大音寺に葬る。著書火筒放發術圖字解あり。【四二、四六、五〇】

エ、エカテリナ女帝　カタリイナに同じ。【二五】

オ、ヲ　小笠原伊勢守

名は長幸、長直の子。明和六年二月御勘定となり、天明八年九月組頭に進む。寛政五年家を繼ぎ、八年十一月御勘定吟味役となる。後累進して勘定奉行となり、文化九年松前奉行を兼ねしめらる。この年十一月死。【六一】

大河內政壽

政與の子。天明二年十二月遺跡を繼ぎ、三年九月御書院番士となる。寛政元年正月御使番となる。寛政十年四月命を奉じて松前に赴き蝦夷地を巡視して東蝦夷シャマニに至る。同年十一月歸り將軍に謁す。【五二】

尾島鍋二郎

名は信賢、折井吉十郎興正の二男、尾島定右衞門信尹の嗣となる。寶曆

十一年十二月遺跡を繼ぐ。廩米百五十俵を給せらる。安永五年二月表御右筆となり、天明元年五月奥御右筆に移る。【五二】

大鹽平八郎

名は後素、字は子起、中齋と號す。大阪の與力にして王陽明の學を奉ず。性剛直活達にして頗る吏務に通ず。後職を辭して諸生に教授す。天保七年諸國荒飢下民困弊するもの多し。翌八年平八郎上書して官穀を賑恤せんことを乞ひしが、町奉行跡部良弼省ぜざりし爲、同志と結び一揆を起し城代の家を攻め、事敗れ遁れて京都に至り遂に自殺す。【一一二】

太田資愛
太田南畝

名は覃、字は子耕、通稱は直二郎、南畝、四方赤良、蜀山人、四方山人、杏花園等の號あり。幼より學を好み、文章を好くし、旁ら狂歌を作る。少にして加賀藩儒士内山、松崎二人に學ぶ。明和二年徒士となる。寛政六年昌平黌の試に應じて登第し、銀を賜はる。八年支配勘定となる。十一年大阪に行くを命ぜられ、未だ發せずして孝義錄編修を督せしめらる。明年書成つて之を上り、白銀若干を賜はる。享和元年大阪に至り、文化元年長崎に至る。五年武相諸州の治水を檢視し、遂に月俸を增されて十人扶持とせらる。文政六年四月死。年七十五。江戸白山本念寺に葬る。著書數十種、皆世に行はる。【四七】

大槻玄澤
大槻盤水
大村上總介

吉宗時代、田沼時代揭出。【三八】

玄澤に同じ。【六九】

名は純昌、純鎮の子、天明六年正月大村に生る。寛政十二年年甫めて十五、父に從ひ東覲し、從五位下に叙し、上總介に任ず。後丹後守に移る。享和三年封を襲ぐ。當時天明荒飢の後を承け藩政また頗る逼迫せしが、よく節約を以て衆を率ゐ、租法を改め、隄防を築き排水灌漑につとめ、また儲倉を設けて凶荒に備へ釐革するところ頗る多し。其家代々長崎警備の任に當るを以て、文化元年露船來航、同五年英艦襲來等の際に兵を出し功あり。文政中長崎在留の唐人の放恣を制し遂に七十餘人を拘するに至る。しかも恩威並び行はれ、よく其の服するところとなる。天保七年嗣を得て隱居し、同九年十月死。年五十三。【七九】

【カ行】

河野恕齋

名は子龍、字は泊潛、通稱は忠右衛門、恕齋また鶴皐、南濱等と號す。京都の人岡龍洲の男。岡氏本姓河野なるを以て遂に改めて河野氏を稱す。幼にして博覽强記、神童の稱あり。父と共に肥前蓮池侯に仕ふ。肥後の藪弧山嘗つて京都に遊び、其の文章を見て嘆異し遂に交を結ぶといふ。蓮池侯東上の次大阪に留り召して尙書を講ぜしめ遂に大阪の邸守とし、秩百石を賜ふ。邸政淸肅頗る効績あり。然れども疾にかゝりて安永八年二月遂に死す。年三十七。著書洪範孔傳辨正、國試韋註補正、韓非子解等あり。【八九】

孝明天皇
葛西一詮

元祿享保中間時代揭出。【一一二】

通稱は惣右衛門、肥後有吉家の家宰

にて祿千石を食む。性剛直にして富田大淵高山正之等と交り厚し。享和元年十月死。年五十。肥後飽託郡池田村絳城原に葬る。【九九】
羽倉齋宮に同じ。元祿時代中卷揭出。【六、八七】

荷田東滿

荷田在滿
カタリィナ

寶曆明和篇揭出。【六】
カタリナ二世なり。始め露西亞ペテロ三世の皇后なりしが、後帝を弑して位に卽く。ペテロ大帝の遺圖を嗣ぎ、領土擴張の志を抱き、ポーランド分割を行へり。一七二九年生れ、九六年死。【四二】

葛子琴

名は張、蠡庵と號す。又御風樓、小園叟等の號あり。通稱は橋本貞元。大阪の人。祇南海の詩風を好み、後片山北海の混沌社に入る。又醫を京都に學びて其精奧を究む。博學洽聞最も左傳に熟す。されど最も詩を以て稱せらる。兼ねてまた笙、篆刻に巧なり。享和二年死。年四十六。遺稿葛氏漫草、小園摘稿等あり。【八九】
松平定信時代揭出。【七六、八八、一〇五、一〇七、一〇八、一〇九、一一〇、一一二】

蒲生君平

田沼時代、寶曆明和篇揭出。【八七】
名は知雄また憲と稱す。字は伯龍、鹽井と號す。肥後藩儒青溪の子。長じて家學を受け、天明三年三月時習館訓導助役となり、六年訓導となる。寛政四年命を奉じて江戸に赴き藩主の侍講となり物頭に進む。享和二年また江戸に召されて昌平黌に經を講ぜしめらる。文化元年九月時習館助教となり、八年八月御使番となり、文政四年教授となる。六年二月罷め、八年三月隱居す。十三年六月再び召されて教授とせられ、天保十年辭し、其年二月死。年八十六。【一〇〇、一〇三】

賀茂眞淵

辛島才藏

木村キ謙

通稱は謙次、字は子虛、常陸久慈郡天下野村の人、父は八左衞門、昌尙と名乘る。家代々農を業とす。幼より金砂山東淸寺の大雲に學び又谷田部東壑立原翠軒に從遊す。後また原南陽に從ひ醫方を問ふ。性實直にして氣慨膽略あり、寛政五年藩廳の許を得て普く蝦夷地を巡視し、十年更に近藤重藏と共に北海を巡り、地勢風土を筆錄し、歸りて復命す。文化八年七月死。年八十。明治四十年十一月正五位を贈らる。【九六】

曲亭馬琴

名は解、字は瑣吉、馬琴と稱す。曲亭は其別號なり。瀧澤氏。父興藏松平信成に仕へ數子を生む。馬琴は其季子なり。明和四年六月江戸深川に生る。父歿後其兄興旨事を以て仕を致して去る。是を以て馬琴もまた去つて幕士數氏に仕へたれども何れも永からず。又醫を醫官山本宗英に、經を龜田鵬齋に學びしが間もなく去る。嘗つて山東京傳の家に寓し大に歡待せられ遂に稗史小說を以て身を立つるに至る。嘉永元年十一月死。年八十二。著書頗る多く、南總里見八犬傳最も著はる。性方正剛毅世と容れず。故に終身其交を全ふせしもの少しといふ。【一一〇】
細川重賢に同じ。吉宗時代、田沼時代揭出。【一〇一】

銀臺公

ク

熊澤蕃山　元と野尻氏、藤兵衛一利の子。外祖父熊澤守久に養はれて其氏を冒す。通稱次郎八。後助左衛門と改む。字は了介、名は伯繼、蕃山は其の號なり。又自遊軒と號す。元和五年生る。寛永十七年板倉重昌の薦を以て備前岡山池田侯に仕ふ。一たび致仕して後再び出仕す。萬治元年致仕京都に寓す。故ありて松平信之に預けられ、元祿四年下總古河に死す。年七十三。【一一】

クルセンステルン　露西亞の人。クロンスタットの兵學校を出で、一七九三年イギリスの海軍に奉職せしが、後皇帝アレクサンドルの信任を得て露西亞と東印度との交易を開かんとし、又樺東に於ける毛皮商業を盛ならしめんが爲、一七九九年カムチャツカより海路支那に毛皮を輸入する途を開かんことを建言し、許されて使節レザノフと共に我國に來り、後其見聞記を作りて世界一週記といふ。後年海軍兵學校長となる。一七七〇年生れ、一八四六年死。【三二、三三、五五】

黒田官兵衛　名は長順、齊隆の子。寛政七年福岡に生る。十月遺領を嗣ぎ筑前四十七萬三千百石を領し福岡に居る。後名を齊清と改む。寛政十年長崎に備ふる大筒を献じ幕府より賞せらる、文化五年英船長崎に入るや兵を出して警備の任に當る。この年侍從兼備前守となり、文政十二年左近衛權少將となる。天保五年致仕して家を養子長溥に讓り嘉永四年二月江戸藩邸に死す。年五十七。性深く學を好み、殊に博物の學に詳しく、幼より珍禽異木を愛し、やゝ長じては之を蒐集して廣く譯人に問ひ、又洋書を購ひ、蘭人ヅーフ及シーボルトを引見して西洋の事情を聞き博物の標本圖畫聚積せるもの數百種に及びしといふ。【七八】

光格天皇　松平定信時代掲出。【一二、九七、一〇六、一一二、一一三】

菅茶山　松平定信時代掲出。【八九、九〇、九五】

コ

古賀精里　松平定信時代掲出。【一〇一】

後光明天皇　御名は紹仁、幼稱は素鷲宮、後水尾天皇第三皇子。御母は壬生院藤原光子。寛永十年三月御降誕。四十年十一月明正天皇の讓を受けて即位す。在位十一年、改元するもの三。承應三年九月崩御、御壽二十二。山城下京區今熊野町月輪陵に葬る。御性學問を好み給ひ、嘗つて藤原惺窩の文集に御製の序を賜へり。又釋奠の儀を再興し給はんとせしが、早く崩じ給ひしを以て其事止みたり。【一一一、一一三】

後櫻町上皇　實曆明和篇掲出。【一一三】

小菅正容　金十郎また猪右衛門と稱す。實は市川十次郎清移が二男。外祖父小菅武弟に養はれて其嗣となる。安永五年十二月西城御小性組に列し、天明二年五月遺跡を嗣ぐ。知行千五百石。寛政九年正月御使番となり、十年四月より火事場見廻を兼ぬ。【五七】

後水尾天皇　御諱政仁、後陽成天皇第三皇子。御母は中和門院藤原前子。文祿五年六月御降誕。慶長五年十二月親王となな

り、十六年三月受禪、四月卽位し給ふ。時に御年十六。寛永六年十一月皇女興子に位を讓る。在位十八年。改元するもの二。後院中にあり政を聽くこと五十一年。延寶八年八月崩御。御壽八十五。京都泉涌寺に葬る。天皇御志を典故に留め、又和歌を好み給ひ、屢〻風流の御遊ありしといふ。【一一一、一一三】

後陽成天皇

御名は周仁、初名利仁、正親町天皇の皇孫なり。陽光院誠仁親王第一皇子。御母は新上東門院藤原晴子、內大臣晴右の女。元龜二年十二月御降誕、御父誠仁親王薨去し給ふにより、正親町天皇の後をついで天正十四年十一月御受禪、越えて同月廿五日御卽位。十六年四月秀吉の聚樂第に御行幸あり。秀吉御料を献ず。これより朝廷の供御やゝ多し。慶長九年家康供御一萬石を以て定額とす。左位二十六年、改元するもの二、慶長十六年位を後水尾天皇に讓る。元和三年八月崩ず。御壽四十七。山城國紀伊郡深草村大字深草法華堂陵に葬る。【一一二】

近藤吉左衞門　松平定信時代掲出。（五二）

近藤重藏　守重に同じ。

【サ行】

サ

齋藤權佐　名は高壽、權佐と稱す。世々熊本侯に事ふ。元、米良氏、十五歲にして出でゝ齋藤氏を繼ぐ。始め武技を學び、後ち學に志し主として徂徠の學を祖述す。年三十九出でゝ河尻の作事頭となる。河尻の士多く來りて敎を求む。後ち大射儀一篇を作り、犬追物の儀を明にし遂に騎射師となる。故ありて罷められ下士に貶せられしが、其名京師に聞え天子詔して特に賞せらる。五十二歲の時再び用ひられて高橋の府尹となり治績頗る見るべきあり。また物頭を經て使番に陞り熊本作事頭に任ぜられ、留守物頭に進む。文化五年十二月死。年六十六。【九九】

齋藤高壽

境野意明　權佐に同じ。【九八、一〇〇】字は仲亨、また仲英、嘉十郎と稱し、凌雲、藍田、蘇泉などの號あり。世々熊本侯に仕へ、三百五十石を食む。齋藤權佐と共に犬追物を興し、其師範となる。又學を好み書を讀み大に士を愛す。寛政十年川尻町奉行となり治績大に擧る。享和三年十月御中小性頭となる。文化二年二月不埒の事ありて役を除かる。文化八年九月死。年六十三。【九九】

酒井忠勝　忠利の子。小字は與七郎、慶長十四年從五位下に叙し、讃岐守と稱し三千石を賜はる。元和六年七千石を加へられ、次いで五萬石を增賜せらる。父忠利の死後其の遺領を嗣ぎ總て十萬石を領す。寛永十一年若狹に轉封越前敦賀、安房勝山等を併せて十二萬五千石を食む。後大老職に補し、明暦二年致仕、萬治三年髮を削りて空印と號す。寛文二年死。年七十六。【一】

シ

司馬江漢　江戸の人、名は俊、字は君岳、春波樓、不言道人、桃言、無言、西洋道人等と號す。延享四年生る。始め鈴

木春信に繪畫を學び、後谷文晁の門に入る。一日人の西洋畫を示すあり、江漢其の妙に感じ遂に長崎に至りて蘭學を修め、師に就きて西洋畫を習ひ略其の技に通ずるを得たり。我國に西洋畫及び銅版のあるは實に江漢に始まる。其學漢學の素養に加ふるに蘭學を以てしたるを以て常人の及ぶべからざる所ありしといふ。文政元年十月死。年七十二。【八三】

田沼時代掲出。【四五、七七、八七、九〇、一〇一】

柴栗山

通稱は初、助之進、後齋藏と改む。親白、親膺などゝ名のり後國柱と改む。鼓川と號す。鹿兒島藩士。父は本田休左衛門、寶暦十二年生れ、寛政二年二月白尾國倫の嗣となり新納時昌の女を娶る。文政の初、藩の記錄奉行を勤め、同三年物頭に遷る。文政四年二月死す。年六十。著書成形圖說は文化二年二月成りて献ず。修撰の命を受けてより七年なり。【一〇〇】

吉宗時代、田沼時代、松平定信時代掲出。【七二、七三、七四、七五】

白尾國柱

元祿享保中間時代、松平定信時代掲出。【一一二】

【タ行】

タ

大猷院

德川家光に同じ。松平定信時代掲出。【一四】

高田屋嘉兵衛

淡路都志本の人、明和六年生る。幼より大志あり、嘗つて一廻船夫となりしが、諸弟を率ゐて兵庫に赴き漕船業を營み巨船數隻を作り近海を航行し、又北海の遺利の大に拾ふべきあるを察し、年々箱館に廻航して大に富を得たり。寛政十年自ら箱館に赴き幕吏三橋藤右衛門に邂逅し其知遇を得、翌年三月酒田より松前までの產物輸送の官用を果し、遂に東蝦夷厚岸に至り近藤重藏に會し推されて御用船頭となり擇捉への航路を開く。文化八年露船に捕へられしが、十年國後に還され、日露兩國間の懸案解決に努力し功あり。爲に幕府及び藩侯より賞賜せらる。晚年鄕里に歸臥し弟金兵衛をして家業を繼がしむ。文政十四年四月死。年五十九。【五三、六二、六三、六四、六五、六六、六八】

名は重賢、越前守と稱す。德川幕府の勘定所の小吏より松前奉行の屬となり、次第に陞進して納戸頭を經て佐渡奉行となり、文政五年長崎奉行となる。九年罷めて新番頭、日光奉行等となる。天保四年死。【六六、六七】

高橋三平

名は順、字は子友、初め慶藏と稱し、後敬藏と改む。元原田氏、阿蘇山中に生る。長じて熊本藩醫高本氏に養はれ、明和四年其後を嗣ぎ二百石を食む。幾もなくして時習館訓導となる。後助教を經て教授となる。藩公國にあるの時屢〻出でゝ、經を公朝に講ず。公また賞賜するところ多し。遂に班を上せて使番より鳥銃隊長となす、文化十年十二月死。年七十六。熊本に皇典の學起りしは主として紫溟の力による。【九八、一〇一、一〇

高本紫溟

高山彦九郎　二、一〇三、一一二】

田沼時代、松平定信時代掲出。【三、四、七六、八七、八八、八九、九三、九四、九五、九八、一〇〇、一〇一、一〇二、一〇三、一〇四、一〇五、一〇七】

高山仲繩　彦九郎に同じ。【九八、一〇〇】

高山正之　彦九郎に同じ。【三】

竹内式部　寶暦明和篇掲出。【四、八七、九四】長熙の子。延享元年生る。寶暦十二年九月父の封を襲ぎ、筑後國内の地一萬石を領し三池に住す。この年十二月從五位下出雲守に叙任す。寛政元年六月大番頭となり、四年九月奏者番に移り寺社の奉行を兼ぬ。五年八月若年寄となる。文化二年十二月事により蟄居を命ぜられ子順之助種德をして封を嗣がしめらる。【五二、五三】

立花種周　松平定信時代掲出。【九六】仙臺藩第九世の主、齊村の長子、母は鷹司輔平の女。生れて數月にして齊村死し襁褓國を承け、專ら祖母觀心院殿に鞠育せらる。稍長するに及んで痘瘡に罹り、久しくして癒えず、異母弟德三郎を養ひて嗣とし、隱退し、文化九年四月死、年僅かに十七。或はいふ實は十四にして死せり、幕府の除封を免れんが爲に三年間其の喪を秘せりと。この間藩老中村日向事を執りて一も破綻を示すことなかりしといふ。【五六、五八】

立原翠軒

伊達周宗

伊達宗城　幕府旗下の士山口直勝の子。幼字は龜太郎、又知太郎と稱す、文政元年八月江戸に生れ、十一年九月宇和島藩士伊達壽光の養子となり翌年藩主伊達宗紀の嗣となる。天保五年從四位下に叙せられ、大膳太夫に任ぜらる。弘化元年襲封十一萬石を領し遠江守と改む。同三年侍從に任ぜられ、安政五年致仕す。然れども文久慶應の際國事に努力し左近衛權少將となり又從四位上に叙せらる。明治維新の際議定となり、二年九月民部兼大藏卿となり、後本官を解かる。四年清國に使し條約締結に功あり。十六年修史館副總裁となる。廿年二月死。特旨を以て從一位に叙せらる。【二】

ツ

柘植長門守　名は正寛。晃正の子。寶暦元年五月十七歳にて遺跡を嗣ぎ采地千五百石を知行す。八年九月西城御小性組の番士となり、明和二年五月御徒士頭に轉じ、四年九月目附となる。安永二年十二月佐渡奉行に轉じ、四年六月長崎奉行に進み、七月從五位下長門守となる。天明六年閏十月御勘定奉行に移り、八年七月清水家老に轉ず。寛政九年十月西城御小性組番頭に進む。【一〇】

ツ　ー　フ

千七百七十七年十二月和蘭アムステルダムに生る。千七百九十八年東印度會社の役員となり、爪哇に來り、翌年長崎出島の書記となりて我が國に來る。されど直ちに爪哇に還り其翌年我が寛政十二年再來す。當時和蘭出島商館の紊亂甚しかりしがよく館規を肅正し、帳簿を整理し、更革するところ多し。享和三年甲比丹となり露英兩國船長崎入港の時に際し、機宜の措置を取り商館の危機を脱せり。文政元年去つて本國に歸り、千八百三十五年十月アムステルダム

に死す。著書日本回想錄あり。【五一、八〇、八一、八二、八三、八四、八五】

ト

戸川安倫

通稱藤十郎、曲直瀬正三の第二子。戸川安精に養はれて其嗣となる。安永六年十月遺跡を繼ぎ采地四百石を知行す。天明三年九月御小納戸となる。寛政七年下總小金原狩獵に從ひ、其事を指揮す。同十二年命を奉じて蝦夷に赴き、山川風土の狀を探り來り、筑前守と稱せしめらる。享和元年小納戸頭取に進み、二年蝦夷の事を奉行せしめられ箱館に居り箱館奉行と稱す。後松前に移り松前奉行と改む。文化四年露人來寇の事を以て職を免ぜられ、後廣敷用人となる。文政四年三月死。年六十。江戸目黑最上寺に葬る。【五四、五九】

德川家齊

松平定信時代揭出。【一一二】

德川家康

家康時代以下各篇揭出。【一、一一〇】

德川綱吉

幼字德松、家光の第四子。母は桂昌院、正保三年正月生る。慶安四年廚料十五萬石を賜ひ、承應二年八月從三位右中將に任叙し、寛文元年閏八月上野館林城を賜ひ前封と合せて二十五萬石を領す。十二月參議を兼ね。八年五月家綱の嗣となり權中納言に叙しついで征夷大將軍に拜し、內大臣となる。僧徒の言を信じ、犬を愛せしを以て犬將軍と稱せらる。又柳澤吉保を登用し、庶政多く之に委ね。寶永六年正月死。年六十四。東叡山に葬る。【一、一一】

德川慶喜

吉宗時代揭出。【二】

德川吉宗

松平定信時代揭出。【一、六、一一二】

戸田氏敎

實は松平武元の五男、寶曆四年生る。明和五年四月戸田氏英の病に臨み其養子となり、翌年遺跡を嗣ぎ十萬石を領す。この年十二月從五位下采女正に叙任す。寛政元年六月奏者番となり十一月寺社奉行を兼ね。二年四月御側用人に進み、十一月老職に補せられ、從四位下に昇る。同年十二月侍從となる。文化三年四月廿六日死。年五十三。【四四、五二】

戸田又太夫

また亦太夫とも稱す。名は常保、蝦夷紗那會所調役元じめなり。文化四年四月廿九日露兵の紗那に來り侵すや衆寡敵せず、會所を奔り出で有崩に至りて自殺す。其子某の有崩に建てたる墓碑今もあり。【五六】

遠山金四郎

名は景晋。實は永井筑前守直令の四男。寶曆十四年正月生る。遠山景好の養子となり、天明六年閏十月遺跡を嗣ぎ、采地五百石を知行す。七年正月御小性組に列し、寛政六年三月甲科に擧げられ、八年十二月より西城に候す。享和二年三月目附に移る。文化元年露船渡來の際長崎に赴き、翌二年八月松前西蝦夷に赴かしめらる。九年二月長崎奉行となる。十三年作事奉行に遷り、文政二年勘定奉行となる。十二年老を告げて退隱す。天保八年七月廿二日死。年七十四。江戸下谷本光寺に葬る。【四四、四五、四六、四七、五七】

富田大淵

名は大鳳、日岳と號す。大淵また伯圖と字す。肥後熊本藩士。元隈部氏、菊池氏より出づ。祖父龍門山鹿に居り醫を業とし、儒を加賀見鵜灘に學ぶ。後遂に細川氏に仕ふ。父元朗時習館句讀師となり、後醫に復す。大

淵幼より卓犖不羈、書を讀んで大義に通ずるを求め、章句に屑々せず、祿百石を賜はり、再奉館師役となる。常に王室恢復を以て念となせり。享和三年二月死。年四十二。著書日岳文集王道興衰策等數種あり。【九八、一〇〇、一〇三】

富田大鳳
富田謙治

大淵に同じ。【九九】
大淵の子、守謙と稱し、文山と號す。家風を承けて尋常ならず、父の所作生唆行等を吟じつゝ女工を營みしといふ。【一〇〇】

土井大炊頭

初名利和、後利厚と改む。實は松平忠名の四男、寶曆九年生る。安永六年土井利見の養子となり、十二月遺領七萬石を繼ぎ、下總古河城に居る。七年十二月從五位下大炊頭に叙任す。八年八月奏者番となり、天明六年寺社奉行を兼ぬ。後兼職を解かしめられしが、寛政八年十二月再び之を兼ぬ。享和元年所司代となされ侍從に任ず。翌年十月老中となる。文政五年三月一萬石加增せらる。五年七月死。【四四、六一】

豐臣秀頼

幼字捨丸、秀吉の二男、文祿二年生る。慶長元年五月從四位に叙し、三年四月從二位權中納言となる。六年三月權大納言、七年正月正二位、八年四月內大臣に進む。六月秀忠の女千代姫を娶る。十年四月右大臣に任じ、十二年正月辭す。十五年正月使を駿府に遣はし家康に正を賀し爾來恒例とす。元和元年五月家康と戰ひ敗れて自殺す。年廿三。【一一〇】

【ナ行】

ナ

中川忠英

忠易の子、明和四年十一月遺跡を嗣ぎ采地千石を知行す。安永六年十二月小普請の組頭となり、天明八年九月御目附に轉じ、寛政元年事により て咎められしが、間もなく免さる。同五年三月松平定信に從ふて伊豆、相模、武藏等の海岸を巡行す。七年二月長崎奉行となり、七月蝦夷守となる。九年二月御勘定奉行に轉じ、六月より關東郡代を兼ぬ。後大目附となり、文化四年堀田正敦に添ふて蝦夷に使す。【五七】

長久保赤水

名は玄珠、字は子玉、赤水は其の號、源五兵衛と稱す。水戸赤濱村の人。頗る地理學に通ず。嘗つて長崎に使し、清槎唱和の著あり。又長崎行役日記あり。後郡奉行皆川敎純に推されて文公の侍讀となり、獻替の功少なからず。常に好みて他の儒士と交り、また能く後生を誘掖す。晩年赤濱に退き居り、享和元年七月死。年八十五。著書前二書の外、日本地理誌日本地理考、唐山古今沿革圖、萬國地球圖說等十數種あり。【九六】

長瀨眞幸

七郎平と稱し、田廬と號す。肥後熊本藩士。明和二年生る、初め草野潛溪を師とし、後永廣十助に學ぶ。十八九歲の時より皇國の古史舊典を窺ひ、深く敬神尊王の志あり、守山廣豐に從つて橘家の神道を學ぶ。遂に伊勢に至り本居宣長の門人となる。享和二年九月家督を嗣ぎ、文化元年十一月御帋方組脇となり、八年學校御目附となる。九年御天守支配頭に轉じ、十三年免ぜらる。同年參觀に

御供し東行す。天保四年御鐵砲頭となり六年五月病んで死す。年七十一。〔一〇一、一〇二、一〇三、一一二〕

中山作三郎

長崎の人、名は武成。家代々通詞を勤む。作三郎は其の五代目なり。文化中露英の船の入港せるとき折衝の任に當りて功あり、幕府より賞賜せらる。文化十三年死。子作二郎武德嗣ぐ。〔四二、四六〕

中山愛親

松平定信時代揭出。〔一二〕

中井竹山

松平定信時代揭出。〔九三、九四〕

中井履軒

竹山の弟、名は積德、字は長叔、德三と稱す。兄と共に宋學を五井蘭洲に學ぶ。然れども好んで群書を讀み其說を折衷し、意に協はざるあれば名賢、碩儒と雖辯駁避けず、其の文章また圓活にして奇致あり。兄の死後毎年數回尙書を懷德書院に講じて弟子に聽かしむ。文化十四年二月死。年八十六。著書七經雜題略、七經逢原、通語、恤刑茅議等あり。〔七一〕

鍋島肥前守

肥前佐賀藩主治茂の子。安永九年九月生る。幼字祥太郎、十五歲の時世子となり、翌年元服して將軍の諱字を賜はり、左衞門齊直と名のる。文化二年五月二日家督を嗣ぐ。當時露使長崎入港の際に當り藩中出費多く財政大に困難せしが、勤儉以て衆を率ゐ、能く財務を整へ風紀を肅清せり。文化五年八月英船長崎に入るに及び警衞を命ぜられしが、事により幕府より過塞を命ぜらる。後免さる。天保元年二月隱居して家督を直正に讓る。六月祝髮桂翁と稱す。十年正月死。年六十。〔七二〕

ナポレオン

カロル、ボナパルトの子にしてコルシカ島に生る。やゝ長じて巴理の陸軍兵學校に入り、ツーロン攻擊の際は砲兵大尉として軍に加はり功あり。一七九八年埃及を征して歸るや、政府を仆して自ら第一執政官となる。ついで伊墺の軍を破り、一八〇四年佛蘭西帝位に卽く。翌年伊太利王をも兼ぬるに至る。一八〇五年其艦隊はトラファルガーに破れしが、自ら陸軍を率ゐて墺露の兵をアウステルリッツに破り威權歐大陸に振ふ。一八一二年モスクバに破れて歸り、一四年はエルバ島に流されしが十五年三月脫出し佛蘭西に歸りワーテルローの一敗セントヘレナに流され、一八二一年五月歿。〔八一、八三〕

菫川天民

名は亮、字は簡亮、丹波桑田の人、儉齋の子。誠所の弟。兄と共に伊藤仁齋に學び、其說を究む。然れども其說に疑ひあり、日夜發憤して勉學し遂に孔孟の正意を得るといふ。また兵書を讀み軍機に通ず。醫方、本草の學また頗る通達す。享保三年四月死。年四十。門人私諡して天民先生といふ。著書天民遺言、松山暗語等あり。〔五〕

成島錦江

名は鳳卿、また信遍、字は歸德、通稱は道筑、錦江は其の號なり。元平井氏、十七歲江戸に出で成島道雪の嗣となる。學を好みて最も徂徠の說を悅ぶ。養父の後を嗣ぎて幕府の坊主となり、元文二年同朋の班に進む。享保の間禮記明律を侍講し甚だ寵遇せらる。恩賜の書甚だ多し。乃ち藏書の庫を建てゝ、號して芙蓉樓といふ。寶曆十年九月死。年七十二。〔六〕

成瀬正定　正常の子。初名正孝、天明四年三月遺跡を繼ぎ二千四百石を知行す。十二月中奥番士となり、七年六月西城御目附に轉ず。寛政四年三月御目附に移り、八年四月堺の奉行となり、七月從五位下因幡守に叙任す。九年四月大阪町奉行となる。享和元年四月長崎奉行に移る。【四四、四五、四六、四九】

南部利敬　初名信敬、利正の子。安永八年盛岡に生る。天明四年七月遺領を嗣ぎ十萬石を領し、盛岡に居る。寛永五年露船來るの時兵を蝦夷に出す。八年十二月從五位下大膳太夫に叙任す。文化五年十二月蝦夷地警衛の事を命ぜられ二十萬石となさる。文政三年十月死。【五六、五八】

南部信眞　信依が三男。安永七年生る。寛政七年九月兄信房の嗣となり、八年二月襲封、陸奥の内二萬石を領し、八戸に居る。十二月從五位下左衛門尉に叙任す。【五六】

二　仁賢天皇

御名は億計王、市邊押磐王子の皇長子。父王の難に遭ふや皇弟弘計王と共に難を丹波餘謝郡に避け、後播磨明石郡に赴き縮見屯倉首忍海郡細目の家僮となる。清寧天皇の御代迎へられて太子となりしが、天皇崩後弟弘計王の功をたゝへ位を之に讓る。即ち顯宗天皇なり。天皇崩後始めて位に即き大和石上廣高宮に都す。十一年崩じ給ふ。河内藤井寺野中の墳生抜本陵に葬る。【一〇八】

【八行】

羽太安藝守　正養に同じ。【五六】

羽田正養　通稱彌太郎、また庄左衛門と稱す。正香の子。安永五年四月家を繼ぎ廩米五百俵を賜はる。九年正月大番に列し、寛政元年二月より御藏奉行を勤め、五年十二月田安御用人となる。八年正月西城御目附に移り、五月御目附となる。享和元年二月蝦夷地に遣はされ、翌年二月蝦夷奉行となる。ついて之を箱館奉行と改む。後更に之を松前奉行となす。文化四年一月事により過塞を命ぜらる。【五二、五四、五九、七〇】

馬場爲八郎　名は貞暦、貞齋と號す。父は三栖谷仁平といひ長崎の富豪なり。通詞馬場氏の株を買ひ以來其氏を稱す。爲八郎安永七年稽古通詞となり、二十年の間其職を勤め、文化元年石橋助左衛門等と露使に應接し、翌年小通詞格となる。後江戸に召され蝦夷の事を執らしめられ、同五年二月蝦夷地出張を命ぜられ、松前に至る。七年二月長崎に歸る。同年九月醫學世話役となる。後大通詞となる。されどシーボルト疑獄の事に座して天保元年五月永牢となり羽後亀田藩に預けらる。九年十月十日亀田に死す。年七十。亀田町春穂寺に葬る。【四二】

濱田彌兵衛　長崎の商人なり。弟小左衛門子新藏等と共に末次平藏船に乘り臺灣に至り、阿蘭陀長官を擁し、我意に從はしめ、質を拉して還る。是により其名一時に振ふ。肥後侯聘して之を祿すといふ。【九】

林大學頭　述齋なり。松平定信時代掲出。【四五

ヒ

東園天皇　御諱は朝仁、靈元天皇第二皇子。母は敬法門院藤原宗子。延寶三年九月降誕、天和二年靈元天皇の儲君となり、三年皇太子に立ち、貞享四年三月受禪、四月即位す。在位二十二年、改元するもの二、寶永六年六月位を中御門天皇に讓る　仍つて尊號を上りて太上天皇といふ。十二月崩ず。御壽三十七。山城愛宕郡今熊野村月輪陵に葬る。【一一二】

菱川大觀　名は寶、秦嶺と號す。大觀は其字なり。通稱宇門。備前赤坂郡小森村の人。少にして岡山に長ず。故にまた岡山と號す。先世皆勇武を以て著れしが大觀に至り始めて詩文を業とす。後藤芝山に遊び、尾藤二洲と交とし善し。後大阪に出で教授す。天明中下總佐倉侯大阪に鎮する時之に筮仕し、寛政三年從つて江戸に出で世子に伴讀し、遂に佐倉に移る。享和三年七月病みて江戸に死す。年五十六。著書正名緒言、岡山史鈔、秦嶺館文集等あり。【八七】

肥田豐後守　名は頼常、實は加藤正景の三男。肥田頼行の養子となり、其女を娶り、寶曆六年十二月遺跡を繼ぎ采地百五十石を知行す。安永五年八月表御右筆となり、天明四年七月奥御右筆に移る。寛政三年四月御組頭に轉じ、四年七月より御臺所頭を兼ぬ。五年六月御勘定吟味役に進み組頭を兼ぬ。後作事奉行を經て勘定奉行に移り實祿五百石となさる。後長崎奉行となり、文化の初年露使渡來の時折衝して功あり。【四四、四五、四六、四八、五〇】

尾藤二洲　松平定信時代揭出。【八七、一〇一】

一橋治濟　松平定信時代揭出。【一一二】

一橋宗尹　寶曆明和篇、松平定信時代揭出。【一一二】

平山行藏　松平定信時代揭出。【七四、七五、七七】

フ

福島傳兵衛　名は國隆、實は遠山氏の男。北條安房守正房の養子となり、北條氏の舊氏福島の家を再興す。正房遺跡の內農米二百俵を分ち與へらる。延寶五年五月大番に列し、貞享二年八月貝を吹太鼓をうつ作法を其役のものに相傳す。三年九月十日死す。正房の著士鑑用法及び雄鑑の鈔を作り、易城跡步集、微妙至善の口訣等を著述す。【一四】

藤田幽谷　東湖の父。名は一正、字は子定、幽谷は其號なり。通稱次郎左衛門、世々商を業とし、水戸下市に居りしが、學を修めて水戸藩に仕へ、彰考館總裁となり、祿二百石を食む。寛政九年江戸邸に祇役し時政を痛論し、不敬に座して罪せらる。後免され、文化五年代官となり、文政九年三月死。年五十三。【九六、一〇七】

藤田一正　幽谷に同じ。【九六】

ペ

ペウトル　露西亞皇帝。所謂ペテロ大帝なり。一六七二年モスクヴアに生る。性剛毅にして即位以來國勢の振張を圖り、先づ兵制を改革せんとして自ら職工となりて和蘭に赴き實地の研究を重れ、後英佛諸國を巡りて歸る。ついで大に諸政を改め一七〇三年首府を

ペテルブルグに奪め、越えて一七〇九年三月スウェデン王をプルタバに擊ちて是を破り王を土耳古に走らせしが、一七一一年春土耳古と戰ひ敗れて地を納れ和を結べり。一七二五年死。【四二】

ホ

北房安房守

名は氏長、氏繁の孫、繁廣の子。父死するの時僅に四歳、母の所縁により、上總南縣に寓居す。慶長十九年はじめて家康に出仕し、廩米五百俵を賜ひ後秀忠に仕ふ。遂に町奉行を歴て大目附となり、後五位下に叙す。資性剛直、權貴を憚らず好んで直言す。又幼より好んで兵書を讀み、小幡景憲に從ひ、武田家の兵法を習ひ、遂に其奥秘に達し一家をなし北條流と云ふ。寛文十年五月死。年六十二。著書雌鑑鈔、雄鑑鈔、士鑑用法等あり。【一四】

北條時宗

幼字正壽、相摸太郎と稱す。時賴の子。弘長元年左馬權頭となり、從五位下に叙し、文永元年連署となり、但馬權守を經て相摸守となる。三年將軍宗尊親王を廢して惟康親王を擁立す。五年左馬權頭を兼ぬ。初め時宗幼なるにより同族北條長時、同政村執權の事を攝したりしが、是より時宗自ら執權となる。元の國使を屏け、弘安四年其の大兵を擊破せしは人の知るところなり。同七年死。年三十四。【五七】

保科正之

松平定信時代揭出。【一】

堀田正敦

伊達宗村の八男、寶暦八年仙臺に生る。天明六年三月近江堅田の領主堀田正富の養子となり、九月封を襲ふ。十二月從五位下攝津守に叙任し、寛政元年四月大番頭となり、二年六月若年寄に進む。寛政十一年正月寛政重修譜編撰の事を建議し、遂に其の總裁を命ぜられ、文化九年十一月成りて之を上る。文政九年封を下野佐野に移さる。天保三年六月死。著書干城錄、陸奥紀行、水月文藻、水月藻、幕朝年中行事歌合等あり。又石州流の茶を清水道筒に學び名あり。【五七】

堀平太左衞門

堀勝名に同じ。田沼時代揭出。【一〇一】

本田武純

一に武德といふ。字は子征また眞卿と稱す。四明また閑崇山人と號す。幼名猶次郎。後彌一兵衞と改む。父吉郎右衞門、世々肥後山本郡富原村の里正なり。武純幼より農を好まず、十六七歳より書を讀み、時習館に入り生員となる。居ること三年ならずして學業儕輩に拔んず、されど身の微賤なるを以て用ひられず、柳川に遊び柳川侯の爲に意見を陳じて弊政を改む。後加賀侯に召されたれども藩侯細川氏之を許さず、遂に歸國して小吏となる。幾もなくして文化六年六月病んで死す。時に年四十八。【九九】

本多利明

越後新潟の人、通稱は三郎右衞門、魯鈍齋と號す。出でゝ江戸番羽に住するを以てまた番羽先生と稱す。天文曆數の學に詳しく又物産學に通ず。夙に蝦夷樺太等北地の經營を以て自ら任ず。世人稱して北夷先生といふに至る。文化六年加賀前田氏に筮仕し、文政四年江戸に死す。年七十八。著書經世秘策、西域物語等あ

り。【五、一一、一五、一九、二〇、六九、七七】

【マ行】

マ

牧野備前守　名は忠精、幼字は新次郎、忠寛の子。寶曆十年生る。明和三年八月遺領を嗣ぎ越後長岡七萬四千石を領す。四年閏十二月從五位下備前守に叙任し、天明元年四月奏者番となる。七年十二月寺社奉行を兼ね。寛政四年大阪城代となり、從四位下に昇る。十年十二月所司代に補せられ、侍從に進む。【四四】

松下見林　无祿時代下卷掲出。【一〇八】

松平定信　松平定信時代掲出。【一、二、六、九、一一、一二、一三、一五、二七、二九、三一、五二、六九、九五、九七、九八、一一二】

松平春嶽　名は慶永、字は公寧、從一位田安齊匡の子にして文政十一年九月江戸田安邸に生る。天保九年九月將軍家慶の命を以て松平齊善の嗣子となり、十月封を襲ひ越前福井三十二萬石を領す。十二月元服して將軍の諱字を賜ひ今の名に改む。この日正四位下に叙し、左近衛權少將兼越前守に任ぜらる。當時國家多事にして上下奢侈の傾あり、慶永儉素を以て衆を率ゐ大に武事を振張し又學校を起し、更改するところ多し。安政文久以來國事に奔走し、慶應二年七月政事總裁職となされ、明治元年二月京都守護職に補し、大藏大輔を兼ね。明治維新の際議定に任ぜられ、大藏卿を經て大學別當兼侍讀となさる。又正二位に陞ぜらる。三年七月爵番間祗候に拜す。十四年七月勳二等となり、二十一年從一位に叙せられ、二十二年六月勳一等となる。二十三年六月死。【二】

松平康英　高家前田隱岐守清英の二男。松平康彊の養子となり、安永六年十月遺跡を嗣ぎ采地三千石を知行す。天明八年十二月中奥番士となり、寛政元年十一月御徒頭となる。同八年五月西丸御目附となり、十二年五月御目附に轉ず。享和二年八月御召御船手を兼、文化四年正月長崎奉行仰付らる。同年七月江戸を發し、九月長崎に著す。翌五年八月英船來航の責を負ふて自殺す。年四十一。【七九】

松前美作守　松前道廣に同じ。松平定信時代掲出、【五四】

松前若狭守　名は章廣、道廣の子。寛政四年十月家を繼ぎ松前及び蝦夷を領し福山に住す。十一月從五位下若狭守となる。文化四年三月事によりて蝦夷地を上知せらる。天保二年二月復領せられ、同十月一萬石の格に准ぜらる。【五二、五四、五五】

松本秀持　田沼時代掲出。【一五】

間宮林藏　名は倫宗、常陸筑波郡上平柳村の人、農庄兵衛の子なり。幼より穎悟にして神童の稱あり。最も心を地理天文に注ぐ。文化二年奉行松平忠明に仕ふ。同五年七月命を奉じて樺太の地理を探檢し、つぶさに辛苦を嘗めトツショカウに至る。然れども糧盡きたるを以て一たびトンナイに歸り、翌六年四月また發して遂に韃靼海峽に至り、黑龍江を溯りて德楞樹營に

達し、其地駐在の滿官に會す。十一月江戸に歸り委細を復命し、また東韃紀行二册を著す。邦人の西比利亞探檢に至る、林藏を以て最初とす。弘化二年二月江戸深川に死す。年六十五。明治三十七年四月、正五位を贈らる。【七七】

ミ

三橋成方

通稱鎮作、また藤右衛門、實は萩原藤七郎友明が三男。三橋成烈の養子となり其女を妻とす。寛政三年十月大番に列し、十二月遺跡を嗣ぐ。四年六月御代官となり、六年六月職を辭し、七年十二月小普請組頭となる。八年三月御勘定吟味役に進み、十年四月命を奉じて松前に赴き、蝦夷の政を執る。【五二】

水戸烈公

幼字敬三郎、初名紀教、後齊昭と改む。字は子信、景山また潛龍閣と號す。水戸藩主治紀の第三子。寛政十二年三月江戸小石川藩邸に生る。文政十二年兄齊修の遺命を以て家を襲ひ從三位左中將に任叙し、明年參議となる。襲封以來大に藩治を振張し、武備を修め學校を興し言路を開き、治績大に見るべきものあり。然れども幕府の忌諱に觸れ、弘化元年駒込邸に幽され子慶篤に封を嗣がしめらる。間もなく赦され、嘉永二年以來幕政に關與す。井伊直弼大老となるに及び意見之と會はず再び駒込に幽せられ、更に水戸に屏居せしめらる。萬延元年八月死。年六十一。水戸瑞龍山に葬る。文久二年勅して從二位大納言を贈り、明治元年又從一位を贈らる。【二】

皆川淇園

松平定信時代揭出。【八九、九〇】

ム

向井友章

薩摩藩士なり。字は達夫、賀山山人、また滄浪と號す。幼より市來兼伯に學び、十八歳の時出でゝ江戸に遊び昌平黌に學ぶ。居ること七年其の學大に進み詩文の才衆を壓す。遂に藩に仕へて御藥園來行格となる。文化九年十月死。年五十四。賀山院獨清滄浪居士と諡す。【一〇〇】

村上大學

名は儀禮、義方の子。明和八年三月家を繼ぎ、千石餘を知行す。天明五年六月御書院番に列し、八年十一月より進物の役を勤む。寛政四年正月御使番に移り、八月西城目附となる。十一月命を奉じて蝦夷に赴く。五年南部津輕等の海邊を巡視し、十月江戸に歸る。六年三月御目附に進み、八年九月町奉行に擧げられ、十二月從五位下肥後守となる。十年十月死。年五十二。【二八、二九、三〇】

村上儀雄

また大學と稱す。義禮の子。初め土岐市右衛門頼看の養子となり、後故ありて父の許に歸り、寛政十年十二月遺跡を嗣ぐ。時に年廿六、采地千六十石なり。文化四年堀田正敦に副ひ蝦夷地に遣はさる【五七】

モ

最上徳内

元高宮氏、名は常矩、字は士規、鶯谷と稱す。出羽楯岡の人。農甚七の子、幼時農を喜ばず烟草行商をなし傍ら數理測量の術を學ぶ。遂に蝦夷に渡りしが松前氏に追はれ、江戸に上り、最上徳内と稱し、幕府の醫官山内立長の家僕となり、本多利明の門に入りて學ぶ。天明五年三月幕吏

に從つて蝦夷地を探檢し、擇捉を經て得撫に至り還り報ず。是邦人の得撫に至れる最初なり。寛政三年四月更に命を奉じて得撫に至り、四年樺太を探檢す。五年六月ラクスマン等の至れる時幕吏に添ひ折衝して功あり。十年近藤重藏と共に樣似に至りて還る。天保七年九月死。年八十三。著書蝦夷草紙、度量衡說統等あり。明治四十四年正五位を贈らる。【一五、五二、七七】

本居宣長　寶曆明和篇、松平定信時代揭出。【五七、九八、一〇一】

桃園天皇　寶曆明和篇、松平定信時代揭出。【八九】

【ヤ行】

ヤ

柳澤保明　初名房安、後吉保と改む。安忠の子。萬治元年生る。神田の館に於て父の家を繼ぐ。始め小姓組より小納戸となり、漸次立身して天和元年には上總山邊郡八百三十石を知行す。貞享二年從五位下出羽守となり、元祿元年喜多見重政と共に庶事を申上ぐべき旨命ぜられ、席を若年寄の上席に定めらる。元祿七年正月武藏川越城を賜はり、總て七萬二千三十石を領す。十二月侍從に任じ、老職に准ぜらる。漸次重用せられて寶永元年封を甲駿兩國に移され、總て十五萬千二百石餘を領す。其後駿河の領は甲斐に移さる。正德四年十一月死。年五十七。甲斐山梨郡永慶寺に葬る。【一〇八】

山縣大貳　寶曆明和、田沼時代、松平定信時代揭出。【四、一五、八七】

山內容堂　名は豐信、容堂また鯨海醉侯と號す。山內豐著の長男、文政十年十月生る。嘉永元年七月土佐藩主山內豐惇死して子なきを以て入りて宗族を嗣ぐ。三年、從四位下土佐守に叙任せられ、五年侍從に任ぜらる。封に莅み精を勵まし政を爲し常に皇室の式微を慨し興復の志あり。爲に屢〻幕府の忠に反すといふ。安政六年病を以て致仕し鮫洲に屏居す。文久二年許さる。翌來また幕府の樞機に參與す。慶應三年十月大政返上の意を上言し納れらる。同年十二月議定に任ず。明治元年六月從二位權中納言となり、翌二年藩籍奉還の先頭となる。八月職を辭して麝香間祗候に轉じ、九月正二位に陞る。五年六月死。年四十六。

山本正誼　【二】通稱傳藏、字は子和、秋水と號す。鹿兒島藩士なり。山田君約の門人にして、府學教授の嗣組なり。物頭御用人格に至り湯の頭地頭を勤む。文化五年十月十六日死。年七十五。著書島津國史及び詩文集若干あり。【一〇〇】

【ラ行】

ラ

賴山陽　松平定信時代揭出。【一〇〇】

賴春水　松平定信時代揭出。【八九、九一】

リ

林子平　田沼時代、松平定信時代揭出。【四、五、七、八、九、一一、一二、一四、一五、一九、六九、七六、七七、一〇五】

レ

レザノフ

露西亞の人、貴族出身にしてデルヂヤヴインの書記官長となり、また元老院書記官長となる。後極東に派遣せられ、海運造船の事を處理す。文化元年九月長崎に來り翌年夏歸りてウナリアスカ島イリユリユクより書を露帝に上り日本侵略の意を述ぶ。ついで北アメリカ西北岸に航し所在露民移殖の利を圖り、またシトカ島ノヴォ、アルハンゲルスクに到り部下ダヴイドフ、フオストフと共に我が北邊を侵さんとして果さず。一八〇六年十月オホツクより本國に歸らんとして途病を得、翌年五月クラスノヤルスクに死す。其長崎在留中に編したる日本語辭書は六千語餘あり、ペトログラードの學士院に藏せらるといふ。【三二、三三、三四、三五、三六、三九、四〇、四一、四四、四六、四七、五一、五五、八一、八四】

レザノフ　レザノフに同じ。【四五】

【ワ行】

ワ

渡邊崩　猪十郎また久藏と稱す。義の子。安永二年七月家を繼ぎ、天明四年五月御書院番士となる。八年正月御使番に轉じ、寛政六年十二月西城御目附となり、八年十月より本城に勤む。十年四月命を受けて蝦夷地に赴く。後西城先手頭となり、文化八年三月禁裏附となる。【五二】

索引

【ア行】

ア

奥州仙臺沖……七八
赤坂……四四〇
淺間山……五〇〇
亞細亞洲……六七
亞細亞洲北白里……三三五
阿蘇……四六八
阿蘇郡……四六五
厚岸……二五、二三、二三五、二九
アツケシ……二六、二四〇
厚岸灣……二三五
アニワ……二五七
安房……三九
淡路……二九一
阿嫋港……九九
天草……一七一
天草沖……一七一
アミシイツカ……九三
あみしつか……一〇二
アムル河……一五七
アラスカ……一四二
アレウト……一四二
アレウト群島……九二、一二三、一四五、一五一、一六二
アレキサンデル島……一五六
アワチヤ灣……三〇〇

イ、井

石卷……四四二
石卷港……一六七、一七〇
イスパニア……一九二
伊蘇巴尼亞……六八

伊勢……四一六
伊勢龜山領……九一
伊勢國……一三七
板橋……二六九
イタリヤ……一九二
意太利亞……六八
伊豆……五五
伊豆の島……五九
出水……四六四
出雲……四一六
石見沖……一一七
イリコツカ……九六
イリカウツカ……九七、九八、一〇〇、一〇一
イルカウツカ……一〇三
イルコーツカ……一三三
イルクツク……九四、九六、一〇四、一〇五、一〇八、一一一、一一三、一四三、三〇〇
伊王島……三六七

ウ

内ノ牧……四六五
宇都宮……五〇〇
宇都宮新石町……四九六
宇都宮藩……五〇二
宇土郡……四六六
梅ケ崎……一八七、一八八、二〇〇、二三三
浦賀……五七
ウラカハ……二四四
得撫……六二
ウルツプ……一五六、二四〇、二四五、二四六、二五〇、二七二、三三一
宇和島……七

エ、ヱ

永代橋……二六九
エゲレス……七六、八四、一九二
蝦夷……三、一九、二四、四一、五九、八二、二四〇、二九五、三五八

蝦夷クリル……二九二
蝦夷島……三一四
蝦夷地……二一、一七三、二四〇、二九五、三五八
越後村上……六一
越前……七
越前敦賀……四四六
壷津湖……四六七
江戸……三、二七、五一、五三、五七、六一、一二三、一二四、一二六、一三〇、一三一、一三五、一三七、一三八、一三九、一六七、一六九、一八二、一八三、一八四、二二五、二三三、二三八、二三九、二五九、二六〇、二六二、二六八、二八七、三〇九、三三〇、三三九、三四一、三六八、四一三、四二一、四三三、四三六、四四七、四五四、四六四、四六九、四八六、四九九、五〇八、五三一
江戸音羽……六一
江戸表……一三六
江戸灣……五二、五四
繪鞆……一三五
エトロフ……二四〇、二四一、二四五、二四六、二七五、二七九、三〇九、三六一
擇捉島……六二、二四八、二四九、二五〇、二六二、二六六、二七一、二七九、二八九、二九三、三〇九、四四四
沿海州……三三五

オ、ヲ

小笠原島……二四
岡城……四六五、四六六
奥蝦夷……七六
音羽町……八九
尾張……四一六
大阪……四二三、四三二、四四〇、五三三
オホツカ……九五、一〇一、一〇五、三一〇、三一一、三一三
オホツク……九四、一四一、二九三、二九九、三〇一、三〇二、三〇四
オホーツク……一一三
オホツク海……二七八
オホーツク港……一〇八、一一四
オホツク灣……一四四
太田尾……一九九
大津町……四六五
大村……一九〇、二〇〇

オランダ……六七
和蘭陀……三五、六八
和蘭陀人……二一、四三

【カ行】

カ

海門嶽……四六四
交趾……七〇
上野新田……四一三
上野新田郡……四五六
鹿兒島……八九、四四九、四五三、四五四、四六三、四六四
カヂアク島……一四三、一四七、一六二
桂原……四六六
カミシャーツカ……三三六、三四三
カムサカ……一〇三
カムサスカ……七六、七八、八四、八七、八八、二九五
カムサツカ……九二、九三、二二六、二七八、二七九、二九六、二九九
カムシャアツカ……九三、三一七
カムチャツトカ島……九二
東察加……一四五
東察加半島……一〇四
鴨川……四五〇
カラフト……八二、二五九、二七九、三一八、三三五、三三八
カラフト島……八九、二四〇、二五九、二七一、二七五、三五八、
唐太島……二六一、二七二
カルカッタ……三八〇
廣東……七〇、一四五、一四七、三八〇、三八一、三八二
東埔塞……一九九

キ

キイタニツ……一〇一
菊池……四六一
ギヂギンス……一一三
キバチ村……一八四
木鉢郷……一九八
京都……三、四七、四一一、四一二、四一三、四三〇、四三一、四三三、四三八、四三九、四三六、四四六、四四七、四五二、四五三、四八二、五一一、五一三
金海山……四五五

ク

クシュンコタン……二五九、三〇九
國後……一一四、二七九、二八六、三〇一、三〇九
國後海峡……一一四
クナジリ島……二四六、二六三、二六四、二七五、二七八、二七九、二八六、二八九、二九一、二九二、三〇一、三〇三、三〇九、三一〇、三一一、三一三、三一四、三二一
熊野……四一六
熊本……四五五、四五六、四五七、四六五、四六八、四八一
クルヂア王……一五三
久留米……四八一、四八二、四八三、四八六、四八九
クルリ群島……一五六、一六二
黒羽……四四九
クロンスタツト……一六七
クロンスタツト港……一六八、二七八

ケ

ケラムイ崎……二七九、二九一
建州江寧府……八五

コ

小金原……三三八
五ヶ瀬川……四六五
國分寺……四六七
小瀬戸……一七一
子守村……四一六
コージアク……一五一
コロンビヤ……一四四

【サ行】

サ

サウンド……一四四
堺……二七
坂梨……四六五
相摸……三九
相良……四八一
櫻島嶽……四六四
薩摩……四六五
薩州ノ大島……七八
佐原……八九
サハリン島……一五六
山丹滿州……八四
三條橋……四二四
サンドイク諸島……一五一

シ

四國……四六五
支那……一五三
品川……三二九
西伯利……一〇二、一四四
シベリヤ汗……一五三
鹽竈……五一
下田……一二
上州新田……四四五
上州新田郡……四四一
上州新田郡細谷村……四一、四八八
シヤナ……二六二、二六三、二七五
シヤトロ……二六三
シヤマニ……二四一、二四六
遏羅……一九八
爪哇……一六八、二九〇、四〇三
順天府……七七
シレトコ……二四五
清……三二
巢鴨……二六九

ス

砂鳥……四六七
駿州……五一四

セ

勢州白子……九一、一〇二
西域……六九
入爾馬泥亞……六八
セレベス……三八七
泉州堺津……二九五
仙臺……二三、一六九、二三三、四四六
聖イオニ島……一一四
センベコタン……二九一

ソ

ソウヤ……二四一、二七一、二七五、二二八
宗谷……二七四

【タ行】

タ

臺灣……三五
高島郡……四四九
高千穗峰……四六四
高輪……三二九
竹田……四六五、四六六
竹橋……二六九
太宰府……四八一
韃靼……二〇、三一
玉置……四一六
淡海州……四四九

チ

チギリ……九五
チギリスク……九四
筑前……一〇〇、四六一
筑前沖……一一七

千島……三七、三九二
千島群島……一〇四、一一四
秩父……四一六
占城……七〇、一九九
中國……四一三

ツ

津輕……三六、三八、三一、四四五、四四六
津輕藩……一一三
筑紫……四六一
坪井立テ町……四六六
敦賀……三七

テ

朝鮮……三四、四一
出島……三九、三八五、三六六、三九四、四〇〇、四〇一

ト

南部……三六、四四五、四四六
南部藩……一一三

ニ

西陣太鳥……八四
西別河……一一五
日本橋……二九

ネ

根室……九〇、一一五、一一三、一三四、一一五
根室灣……一一五、一一〇、一一三
ねもろ……一〇三、一三九
ネワ……一五一

ノ

能岡……四六五
野母……一七一
野母御番所……一六九

ドイツ……一七三
土耳其……一三三
諸蘭格……六八

【ナ行】

ナ

長崎……三六、三七、三九、三八、四一、七八、一一七、一一八、一一九、一三一、一三六、一三八、一三九、一四〇、一四一、一四一、一五〇、一五一、一五三、一五八、一五九、一六〇、一六一、一六四、一七一、一七六、一七七、一八四、一八六、一九〇、一九一、二〇一、二一一、二一三、二一四、二一五、二一六、二一七、二一八、二一九、二二〇、二二一、二二四、二二六、二二七、二二八、二二九、二三〇、二三一、二三二、二三四、二三五、二三六、二三七、二三八、二三九、二四〇、二四一、二四二、二四三、二四四、二四五、二四六、二四七、二四八、二四九、二五〇、二五一、二五二、二五三、二五四、二五五、二五六、二五七、二五八、二五九、二六〇、二六一、二六二、二六三、二六四、二六五、二六六、二六七、二六八、二六九、二七〇、二七一、二七二、二七三、二七四、二七五、二七六、二七七、二七八、二七九、二八〇、二八一、二八二、二八三、二八四、二八五、二八六、二八七、二八八、二八九、二九〇、二九一、二九二、二九三、二九四、二九五、二九六、二九七、二九八、二九九、三〇〇、三〇一、三〇二、三〇三、三〇四、三〇五、三〇六、三〇七、三〇八、三〇九、三一〇、三一一、三一二、三一三、三一四、三一五、三一六、三一七、三一八、三一九、三二〇、三二一、三二二、三二三、三二四、三二五、三二六、三二七、三二八、三二九、三三〇、三三一、三三二、三三三、三三四、三三五、三三六、三三七、三三八、三三九、三四〇、三四一、三四二、三四三、三四四、三四五、三四六、三四七、三四八、三四九、三五〇、三五一、三五二、三五三、三五四、三五五、三五六、三五七、三五八、三五九、三六〇、三六一、三六二、三六三、三六四、三六五、三六六、三六七、三六八、三六九、三七〇、三七一、三七二、三七三、三七四、三七五、三七六、三七七、三七八、三七九、三八〇、三八一、三八二、三八三、三八四、三八五、三八六、三八七、三八八、三八九、三九〇、三九一、三九二、三九三、三九四、三九五、三九六、三九七、三九八、三九九、四〇〇、四〇一、四〇二、四〇三、四〇四、四〇五、四〇六、四〇七、四〇八、四〇九、四一〇、四一一、四一二、四一三、四一四、四一五、四一六、四一七、四一八、四一九、四二〇、四二一、四二二、四二三、四二四、四二五、四二六、四二七、四二八、四二九、四三〇、四三一、四三二、四三三、四三四、四三五、四三六、四三七、四三八、四三九、四四〇、四四一、四四二、四四三、四四四、四四五、四四六、四四七、四四八、四四九、四五〇、四五一、四五二、四五三、四五四、四五五、四五六、四五七、四五八、四五九、四六〇、四六一、四六二、四六三、四六四、四六五、四六六、四六七、四六八、四六九、四七〇、四七一、四七二、四七三、四七四、四七五、四七六、四七七、四七八、四七九、四八〇、四八一、四八二、四八三、四八四、四八五、四八六、四八七、四八八、四八九、四九〇、四九一、四九二、四九三、四九四、四九五、四九六、四九七、四九八、四九九、五〇〇、五〇一、五〇二、五〇三、五〇四、五〇五、五〇六、五〇七、五〇八、五〇九、五一〇、五一一、五一二、五一三、五一四、五一五、五一六、五一七、五一八、五一九、五二〇、五二一、五二二、五二三、五二四、五二五、五二六、五二七、五二八、五二九、五三〇、五三一、五三二、五三三、五三四、五三五、五三六、五三七、五三八、五三九、五四〇、五四一、五四二、五四三、五四四、五四五、五四六、五四七、五四八、五四九、五五〇、五五一、五五二、五五三、五五四、五五五、五五六、五五七、五五八、五五九、五六〇、五六一、五六二、五六三、五六四、五六五、五六六、五六七、五六八、五六九、五七〇、五七一、五七二、五七三、五七四、五七五、五七六、五七七、五七八、五七九、五八〇、五八一、五八二、五八三、五八四、五八五、五八六、五八七、五八八、五八九、五九〇、五九一、五九二、五九三、五九四、五九五、五九六、五九七、五九八、五九九、六〇〇、六〇一、六〇二、六〇三、六〇四、六〇五、六〇六、六〇七、六〇八、六〇九、六一〇、六一一、六一二、六一三、六一四、六一五、六一六、六一七、六一八、六一九、六二〇、六二一、六二二、六二三、六二四、六二五、六二六、六二七、六二八、六二九、六三〇、六三一、六三二、六三三、六三四、六三五、六三六、六三七、六三八、六三九、六四〇、六四一、六四二、六四三、六四四、六四五、六四六、六四七、六四八、六四九、六五〇、六五一、六五二、六五三、六五四、六五五、六五六、六五七、六五八、六五九、六六〇、六六一、六六二、六六三、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七一、六七二、六七三、六七四、六七五、六七六、六七七、六七八、六七九、六八〇、六八一、六八二、六八三、六八四、六八五、六八六、六八七、六八八、六八九、六九〇、六九一、六九二、六九三、六九四、六九五、六九六、六九七、六九八、六九九、七〇〇、七〇一、七〇二、七〇三、七〇四、七〇五、七〇六、七〇七、七〇八、七〇九、七一〇、七一一、七一二、七一三、七一四、七一五、七一六、七一七、七一八、七一九、七二〇、七二一、七二二、七二三、七二四、七二五、七二六、七二七、七二八、七二九、七三〇、七三一、七三二、七三三、七三四、七三五、七三六、七三七、七三八、七三九、七四〇、七四一、七四二、七四三、七四四、七四五、七四六、七四七、七四八、七四九、七五〇、七五一、七五二、七五三、七五四、七五五、七五六、七五七、七五八、七五九、七六〇、七六一、七六二、七六三、七六四、七六五、七六六、七六七、七六八、七六九、七七〇、七七一、七七二、七七三、七七四、七七五、七七六、七七七、七七八、七七九、七八〇、七八一、七八二、七八三、七八四、七八五、七八六、七八七、七八八、七八九、七九〇、七九一、七九二、七九三、七九四、七九五、七九六、七九七、七九八、七九九、八〇〇、八〇一、八〇二、八〇三、八〇四、八〇五、八〇六、八〇七、八〇八、八〇九、八一〇、八一一、八一二、八一三、八一四、八一五、八一六、八一七、八一八、八一九、八二〇、八二一、八二二、八二三、八二四、八二五、八二六、八二七、八二八、八二九、八三〇、八三一、八三二、八三三、八三四、八三五、八三六、八三七、八三八、八三九、八四〇、八四一、八四二、八四三、八四四、八四五、八四六、八四七、八四八、八四九、八五〇、八五一、八五二、八五三、八五四、八五五、八五六、八五七、八五八、八五九、八六〇、八六一、八六二、八六三、八六四、八六五、八六六、八六七、八六八、八六九、八七〇、八七一、八七二、八七三、八七四、八七五、八七六、八七七、八七八、八七九、八八〇、八八一、八八二、八八三、八八四、八八五、八八六、八八七、八八八、八八九、八九〇、八九一、八九二、八九三、八九四、八九五、八九六、八九七、八九八、八九九、九〇〇、九〇一、九〇二、九〇三、九〇四、九〇五、九〇六、九〇七、九〇八、九〇九、九一〇、九一一、九一二、九一三、九一四、九一五、九一六、九一七、九一八、九一九、九二〇、九二一、九二二、九二三、九二四、九二五、九二六、九二七、九二八、九二九、九三〇、九三一、九三二、九三三、九三四、九三五、九三六、九三七、九三八、九三九、九四〇、九四一、九四二、九四三、九四四、九四五、九四六、九四七、九四八、九四九、九五〇、九五一、九五二、九五三、九五四、九五五、九五六、九五七、九五八、九五九、九六〇、九六一、九六二、九六三、九六四、九六五、九六六、九六七、九六八、九六九、九七〇、九七一、九七二、九七三、九七四、九七五、九七六、九七七、九七八、九七九、九八〇、九八一、九八二、九八三、九八四、九八五、九八六、九八七、九八八、九八九、九九〇、九九一、九九二、九九三、九九四、九九五、九九六、九九七、九九八、九九九、一〇〇〇、一〇〇一、一〇〇二、一〇〇三、一〇〇四、一〇〇五、一〇〇六、一〇〇七、一〇〇八、一〇〇九、一〇一〇、一〇一一、一〇一二、一〇一三、一〇一四、一〇一五、一〇一六、一〇一七、一〇一八、一〇一九、一〇二〇、一〇二一、一〇二二、一〇二三、一〇二四、一〇二五、一〇二六、一〇二七、一〇二八、一〇二九、一〇三〇、一〇三一、一〇三二、一〇三三、一〇三四、一〇三五、一〇三六、一〇三七、一〇三八、一〇三九、一〇四〇、一〇四一、一〇四二、一〇四三、一〇四四、一〇四五、一〇四六、一〇四七、一〇四八、一〇四九、一〇五〇、一〇五一、一〇五二、一〇五三、一〇五四、一〇五五、一〇五六、一〇五七、一〇五八、一〇五九、一〇六〇、一〇六一、一〇六二、一〇六三、一〇六四、一〇六五、一〇六六、一〇六七、一〇六八、一〇六九、一〇七〇、一〇七一、一〇七二、一〇七三、一〇七四、一〇七五、一〇七六、一〇七七、一〇七八、一〇七九、一〇八〇、一〇八一、一〇八二、一〇八三、一〇八四、一〇八五、一〇八六、一〇八七、一〇八八、一〇八九、一〇九〇、一〇九一、一〇九二、一〇九三、一〇九四、一〇九五、一〇九六、一〇九七、一〇九八、一〇九九、一一〇〇、一一〇一、一一〇二、一一〇三、一一〇四、一一〇五、一一〇六、一一〇七、一一〇八、一一〇九、一一一〇、一一一一、一一一二、一一一三、一一一四、一一一五、一一一六、一一一七、一一一八、一一一九、一一二〇、一一二一、一一二二、一一二三、一一二四、一一二五、一一二六、一一二七、一一二八、一一二九、一一三〇、一一三一、一一三二、一一三三、一一三四、一一三五、一一三六、一一三七、一一三八、一一三九、一一四〇、一一四一、一一四二、一一四三、一一四四、一一四五、一一四六、一一四七、一一四八、一一四九、一一五〇、一一五一、一一五二、一一五三、一一五四、一一五五、一一五六、一一五七、一一五八、一一五九、一一六〇、一一六一、一一六二、一一六三、一一六四、一一六五、一一六六、一一六七、一一六八、一一六九、一一七〇、一一七一、一一七二、一一七三、一一七四、一一七五、一一七六、一一七七、一一七八、一一七九、一一八〇、一一八一、一一八二、一一八三、一一八四、一一八五、一一八六、一一八七、一一八八、一一八九、一一九〇、一一九一、一一九二、一一九三、一一九四、一一九五、一一九六、一一九七、一一九八、一一九九、一二〇〇、一二〇一、一二〇二、一二〇三、一二〇四、一二〇五、一二〇六、一二〇七、一二〇八、一二〇九、一二一〇、一二一一、一二一二、一二一三、一二一四、一二一五、一二一六、一二一七、一二一八、一二一九、一二二〇、一二二一、一二二二、一二二三、一二二四、一二二五、一二二六、一二二七、一二二八、一二二九、一二三〇、一二三一、一二三二、一二三三、一二三四、一二三五、一二三六、一二三七、一二三八、一二三九、一二四〇、一二四一、一二四二、一二四三、一二四四、一二四五、一二四六、一二四七、一二四八、一二四九、一二五〇、一二五一、一二五二、一二五三、一二五四、一二五五、一二五六、一二五七、一二五八、一二五九、一二六〇、一二六一、一二六二、一二六三、一二六四、一二六五、一二六六、一二六七、一二六八、一二六九、一二七〇、一二七一、一二七二、一二七三、一二七四、一二七五、一二七六、一二七七、一二七八、一二七九、一二八〇、一二八一、一二八二、一二八三、一二八四、一二八五、一二八六、一二八七、一二八八、一二八九、一二九〇、一二九一、一二九二、一二九三、一二九四、一二九五、一二九六、一二九七、一二九八、一二九九、一三〇〇、一三〇一、一三〇二、一三〇三、一三〇四、一三〇五、一三〇六、一三〇七、一三〇八、一三〇九、一三一〇、一三一一、一三一二、一三一三、一三一四、一三一五、一三一六、一三一七、一三一八、一三一九、一三二〇、一三二一、一三二二、一三二三、一三二四、一三二五、一三二六、一三二七、一三二八、一三二九、一三三〇、一三三一、一三三二、一三三三、一三三四、一三三五、一三三六、一三三七、一三三八、一三三九、一三四〇、一三四一、一三四二、一三四三、一三四四、一三四五、一三四六、一三四七、一三四八、一三四九、一三五〇、一三五一、一三五二、一三五三、一三五四、一三五五、一三五六、一三五七、一三五八、一三五九、一三六〇、一三六一、一三六二、一三六三、一三六四、一三六五、一三六六、一三六七、一三六八、一三六九、一三七〇、一三七一、一三七二、一三七三、一三七四、一三七五、一三七六、一三七七、一三七八、一三七九、一三八〇、一三八一、一三八二、一三八三、一三八四、一三八五、一三八六、一三八七、一三八八、一三八九、一三九〇、一三九一、一三九二、一三九三、一三九四、一三九五、一三九六、一三九七、一三九八、一三九九、一四〇〇、一四〇一、一四〇二、一四〇三、一四〇四、一四〇五、一四〇六、一四〇七、一四〇八、一四〇九、一四一〇、一四一一、一四一二、一四一三、一四一四、一四一五、一四一六、一四一七、一四一八、一四一九、一四二〇、一四二一、一四二二、一四二三、一四二四、一四二五、一四二六、一四二七、一四二八、一四二九、一四三〇、一四三一、一四三二、一四三三、一四三四、一四三五、一四三六、一四三七、一四三八、一四三九、一四四〇、一四四一、一四四二、一四四三、一四四四、一四四五、一四四六、一四四七、一四四八、一四四九、一四五〇、一四五一、一四五二、一四五三、一四五四、一四五五、一四五六、一四五七、一四五八、一四五九、一四六〇、一四六一、一四六二、一四六三、一四六四、一四六五、一四六六、一四六七、一四六八、一四六九、一四七〇、一四七一、一四七二、一四七三、一四七四、一四七五、一四七六、一四七七、一四七八、一四七九、一四八〇、一四八一、一四八二、一四八三、一四八四、一四八五、一四八六、一四八七、一四八八、一四八九、一四九〇、一四九一、一四九二、一四九三、一四九四、一四九五、一四九六、一四九七、一四九八、一四九九、一五〇〇、一五〇一、一五〇二、一五〇三、一五〇四、一五〇五、一五〇六、一五〇七、一五〇八、一五〇九、一五一〇、一五一一、一五一二、一五一三、一五一四、一五一五、一五一六、一五一七、一五一八、一五一九、一五二〇、一五二一、一五二二、一五二三、一五二四、一五二五、一五二六、一五二七、一五二八、一五二九、一五三〇、一五三一、一五三二、一五三三、一五三四、一五三五、一五三六、一五三七、一五三八、一五三九、一五四〇、一五四一、一五四二、一五四三、一五四四、一五四五、一五四六、一五四七、一五四八、一五四九、一五五〇、一五五一、一五五二、一五五三、一五五四、一五五五、一五五六、一五五七、一五五八、一五五九、一五六〇、一五六一、一五六二、一五六三、一五六四、一五六五、一五六六、一五六七、一五六八、一五六九、一五七〇、一五七一、一五七二、一五七三、一五七四、一五七五、一五七六、一五七七、一五七八、一五七九、一五八〇、一五八一、一五八二、一五八三、一五八四、一五八五、一五八六、一五八七、一五八八、一五八九、一五九〇、一五九一、一五九二、一五九三、一五九四、一五九五、一五九六、一五九七、一五九八、一五九九、一六〇〇、一六〇一、一六〇二、一六〇三、一六〇四、一六〇五、一六〇六、一六〇七、一六〇八、一六〇九、一六一〇、一六一一、一六一二、一六一三、一六一四、一六一五、一六一六、一六一七、一六一八、一六一九、一六二〇、一六二一、一六二二、一六二三、一六二四、一六二五、一六二六、一六二七、一六二八、一六二九、一六三〇、一六三一、一六三二、一六三三、一六三四、一六三五、一六三六、一六三七、一六三八、一六三九、一六四〇、一六四一、一六四二、一六四三、一六四四、一六四五、一六四六、一六四七、一六四八、一六四九、一六五〇、一六五一、一六五二、一六五三、一六五四、一六五五、一六五六、一六五七、一六五八、一六五九、一六六〇、一六六一、一六六二、一六六三、一六六四、一六六五、一六六六、一六六七、一六六八、一六六九、一六七〇、一六七一、一六七二、一六七三、一六七四、一六七五、一六七六、一六七七、一六七八、一六七九、一六八〇、一六八一、一六八二、一六八三、一六八四、一六八五、一六八六、一六八七、一六八八、一六八九、一六九〇、一六九一、一六九二、一六九三、一六九四、一六九五、一六九六、一六九七、一六九八、一六九九、一七〇〇、一七〇一、一七〇二、一七〇三、一七〇四、一七〇五、一七〇六、一七〇七、一七〇八、一七〇九、一七一〇、一七一一、一七一二、一七一三、一七一四、一七一五、一七一六、一七一七、一七一八、一七一九、一七二〇、一七二一、一七二二、一七二三、一七二四、一七二五、一七二六、一七二七、一七二八、一七二九、一七三〇、一七三一、一七三二、一七三三、一七三四、一七三五、一七三六、一七三七、一七三八、一七三九、一七四〇、一七四一、一七四二、一七四三、一七四四、一七四五、一七四六、一七四七、一七四八、一七四九、一七五〇、一七五一、一七五二、一七五三、一七五四、一七五五、一七五六、一七五七、一七五八、一七五九、一七六〇、一七六一、一七六二、一七六三、一七六四、一七六五、一七六六、一七六七、一七六八、一七六九、一七七〇、一七七一、一七七二、一七七三、一七七四、一七七五、一七七六、一七七七、一七七八、一七七九、一七八〇、一七八一、一七八二、一七八三、一七八四、一七八五、一七八六、一七八七、一七八八、一七八九、一七九〇、一七九一、一七九二、一七九三、一七九四、一七九五、一七九六、一七九七、一七九八、一七九九、一八〇〇、一八〇一、一八〇二、一八〇三、一八〇四、一八〇五、一八〇六、一八〇七、一八〇八、一八〇九、一八一〇、一八一一、一八一二、一八一三、一八一四、一八一五、一八一六、一八一七、一八一八、一八一九、一八二〇、一八二一、一八二二、一八二三、一八二四、一八二五、一八二六、一八二七、一八二八、一八二九、一八三〇、一八三一、一八三二、一八三三、一八三四、一八三五、一八三六、一八三七、一八三八、一八三九、一八四〇、一八四一、一八四二、一八四三、一八四四、一八四五、一八四六、一八四七、一八四八、一八四九、一八五〇、一八五一、一八五二、一八五三、一八五四、一八五五、一八五六、一八五七、一八五八、一八五九、一八六〇、一八六一、一八六二、一八六三、一八六四、一八六五、一八六六、一八六七、一八六八、一八六九、一八七〇、一八七一、一八七二、一八七三、一八七四、一八七五、一八七六、一八七七、一八七八、一八七九、一八八〇、一八八一、一八八二、一八八三、一八八四、一八八五、一八八六、一八八七、一八八八、一八八九、一八九〇、一八九一、一八九二、一八九三、一八九四、一八九五、一八九六、一八九七、一八九八、一八九九、一九〇〇、一九〇一、一九〇二、一九〇三、一九〇四、一九〇五、一九〇六、一九〇七、一九〇八、一九〇九、一九一〇、一九一一、一九一二、一九一三、一九一四、一九一五、一九一六、一九一七、一九一八、一九一九、一九二〇、一九二一、一九二二、一九二三、一九二四、一九二五、一九二六、一九二七、一九二八、一九二九、一九三〇、一九三一、一九三二、一九三三、一九三四、一九三五、一九三六、一九三七、一九三八、一九三九、一九四〇、一九四一、一九四二、一九四三、一九四四、一九四五、一九四六、一九四七、一九四八、一九四九、一九五〇、一九五一、一九五二、一九五三、一九五四、一九五五、一九五六、一九五七、一九五八、一九五九、一九六〇、一九六一、一九六二、一九六三、一九六四、一九六五、一九六六、一九六七、一九六八、一九六九、一九七〇、一九七一、一九七二、一九七三、一九七四、一九七五、一九七六、一九七七、一九七八、一九七九、一九八〇、一九八一、一九八二、一九八三、一九八四、一九八五、一九八六、一九八七、一九八八、一九八九、一九九〇、一九九一、一九九二、一九九三、一九九四、一九九五、一九九六、一九九七、一九九八、一九九九、二〇〇〇、二〇〇一、二〇〇二、二〇〇三、二〇〇四、二〇〇五、二〇〇六、二〇〇七、二〇〇八、二〇〇九、二〇一〇、二〇一一、二〇一二、二〇一三、二〇一四、二〇一五、二〇一六、二〇一七、二〇一八、二〇一九、二〇二〇、二〇二一、二〇二二、二〇二三、二〇二四、二〇二五、二〇二六、二〇二七、二〇二八、二〇二九、二〇三〇、二〇三一、二〇三二、二〇三三、二〇三四、二〇三五、二〇三六、二〇三七、二〇三八、二〇三九、二〇四〇、二〇四一、二〇四二、二〇四三、二〇四四、二〇四五、二〇四六、二〇四七、二〇四八、二〇四九、二〇五〇、二〇五一、二〇五二、二〇五三、二〇五四、二〇五五、二〇五六、二〇五七、二〇五八、二〇五九、二〇六〇、二〇六一、二〇六二、二〇六三、二〇六四、二〇六五、二〇六六、二〇六七、二〇六八、二〇六九、二〇七〇、二〇七一、二〇七二、二〇七三、二〇七四、二〇七五、二〇七六、二〇七七、二〇七八、二〇七九、二〇八〇、二〇八一、二〇八二、二〇八三、二〇八四、二〇八五、二〇八六、二〇八七、二〇八八、二〇八九、二〇九〇、二〇九一、二〇九二、二〇九三、二〇九四、二〇九五、二〇九六、二〇九七、二〇九八、二〇九九、二一〇〇、二一〇一、二一〇二、二一〇三、二一〇四、二一〇五、二一〇六、二一〇七、二一〇八、二一〇九、二一一〇、二一一一、二一一二、二一一三、二一一四、二一一五、二一一六、二一一七、二一一八、二一一九、二一二〇、二一二一、二一二二、二一二三、二一二四、二一二五、二一二六、二一二七、二一二八、二一二九、二一三〇、二一三一、二一三二、二一三三、二一三四、二一三五、二一三六、二一三七、二一三八、二一三九、二一四〇、二一四一、二一四二、二一四三、二一四四、二一四五、二一四六、二一四七、二一四八、二一四九、二一五〇、二一五一、二一五二、二一五三、二一五四、二一五五、二一五六、二一五七、二一五八、二一五九、二一六〇、二一六一、二一六二、二一六三、二一六四、二一六五、二一六六、二一六七、二一六八、二一六九、二一七〇、二一七一、二一七二、二一七三、二一七四、二一七五、二一七六、二一七七、二一七八、二一七九、二一八〇、二一八一、二一八二、二一八三、二一八四、二一八五、二一八六、二一八七、二一八八、二一八九、二一九〇、二一九一、二一九二、二一九三、二一九四、二一九五、二一九六、二一九七、二一九八、二一九九、二二〇〇、二二〇一、二二〇二、二二〇三、二二〇四、二二〇五、二二〇六、二二〇七、二二〇八、二二〇九、二二一〇、二二一一、二二一二、二二一三、二二一四、二二一五、二二一六、二二一七、二二一八、二二一九、二二二〇、二二二一、二二二二、二二二三、二二二四、二二二五、二二二六、二二二七、二二二八、二二二九、二二三〇、二二三一、二二三二、二二三三、二二三四、二二三五、二二三六、二二三七、二二三八、二二三九、二二四〇、二二四一、二二四二、二二四三、二二四四、二二四五、二二四六、二二四七、二二四八、二二四九、二二五〇、二二五一、二二五二、二二五三、二二五四、二二五五、二二五六、二二五七、二二五八、二二五九、二二六〇、二二六一、二二六二、二二六三、二二六四、二二六五、二二六六、二二六七、二二六八、二二六九、二二七〇、二二七一、二二七二、二二七三、二二七四、二二七五、二二七六、二二七七、二二七八、二二七九、二二八〇、二二八一、二二八二、二二八三、二二八四、二二八五、二二八六、二二八七、二二八八、二二八九、二二九〇、二二九一、二二九二、二二九三、二二九四、二二九五、二二九六、二二九七、二二九八、二二九九、二三〇〇、二三〇一、二三〇二、二三〇三、二三〇四、二三〇五、二三〇六、二三〇七、二三〇八、二三〇九、二三一〇、二三一一、二三一二、二三一三、二三一四、二三一五、二三一六、二三一七、二三一八、二三一九、二三二〇、二三二一、二三二二、二三二三、二三二四、二三二五、二三二六、二三二七、二三二八、二三二九、二三三〇、二三三一、二三三二、二三三三、二三三四、二三三五、二三三六、二三三七、二三三八、二三三九、二三四〇、二三四一、二三四二、二三四三、二三四四、二三四五、二三四六、二三四七、二三四八、二三四九、二三五〇、二三五一、二三五二、二三五三、二三五四、二三五五、二三五六、二三五七、二三五八、二三五九、二三六〇、二三六一、二三六二、二三六三、二三六四、二三六五、二三六六、二三六七、二三六八、二三六九、二三七〇、二三七一、二三七二、二三七三、二三七四、二三七五、二三七六、二三七七、二三七八、二三七九、二三八〇、二三八一、二三八二、二三八三、二三八四、二三八五、二三八六、二三八七、二三八八、二三八九、二三九〇、二三九一、二三九二、二三九三、二三九四、二三九五、二三九六、二三九七、二三九八、二三九九、二四〇〇、二四〇一、二四〇二、二四〇三、二四〇四、二四〇五、二四〇六、二四〇七、二四〇八、二四〇九、二四一〇、二四一一、二四一二、二四一三、二四一四、二四一五、二四一六、二四一七、二四一八、二四一九、二四二〇、二四二一、二四二二、二四二三、二四二四、二四二五、二四二六、二四二七、二四二八、二四二九、二四三〇、二四三一、二四三二、二四三三、二四三四、二四三五、二四三六、二四三七、二四三八、二四三九、二四四〇、二四四一、二四四二、二四四三、二四四四、二四四五、二四四六、二四四七、二四四八、二四四九、二四五〇、二四五一、二四五二、二四五三、二四五四、二四五五、二四五六、二四五七、二四五八、二四五九、二四六〇、二四六一、二四六二、二四六三、二四六四、二四六五、二四六六、二四六七、二四六八、二四六九、二四七〇、二四七一、二四七二、二四七三、二四七四、二四七五、二四七六、二四七七、二四七八、二四七九、二四八〇、二四八一、二四八二、二四八三、二四八四、二四八五、二四八六、二四八七、二四八八、二四八九、二四九〇、二四九一、二四九二、二四九三、二四九四、二四九五、二四九六、二四九七、二四九八、二四九九、二五〇〇、二五〇一、二五〇二、二五〇三、二五〇四、二五〇五、二五〇六、二五〇七、二五〇八、二五〇九、二五一〇、二五一一、二五一二、二五一三、二五一四、二五一五、二五一六、二五一七、二五一八、二五一九、二五二〇、二五二一、二五二二、二五二三、二五二四、二五二五、二五二六、二五二七、二五二八、二五二九、二五三〇、二五三一、二五三二、二五三三、二五三四、二五三五、二五三六、二五三七、二五三八、二五三九、二五四〇、二五四一、二五四二、二五四三、二五四四、二五四五、二五四六、二五四七、二五四八、二五四九、二五五〇、二五五一、二五五二、二五五三、二五五四、二五五五、二五五六、二五五七、二五五八、二五五九、二五六〇、二五六一、二五六二、二五六三、二五六四、二五六五、二五六六、二五六七、二五六八、二五六九、二五七〇、二五七一、二五七二、二五七三、二五七四、二五七五、二五七六、二五七七、二五七八、二五七九、二五八〇、二五八一、二五八二、二五八三、二五八四、二五八五、二五八六、二五八七、二五八八、二五八九、二五九〇、二五九一、二五九二、二五九三、二五九四、二五九五、二五九六、二五九七、二五九八、二五九九、二六〇〇、二六〇一、二六〇二、二六〇三、二六〇四、二六〇五、二六〇六、二六〇七、二六〇八、二六〇九、二六一〇、二六一一、二六一二、二六一三、二六一四、二六一五、二六一六、二六一七、二六一八、二六一九、二六二〇、二六二一、二六二二、二六二三、二六二四、二六二五、二六二六、二六二七、二六二八、二六二九、二六三〇、二六三一、二六三二、二六三三、二六三四、二六三五、二六三六、二六三七、二六三八、二六三九、二六四〇、二六四一、二六四二、二六四三、二六四四、二六四五、二六四六、二六四七、二六四八、二六四九、二六五〇、二六五一、二六五二、二六五三、二六五四、二六五五、二六五六、二六五七、二六五八、二六五九、二六六〇、二六六一、二六六二、二六六三、二六六四、二六六五、二六六六、二六六七、二六六八、二六六九、二六七〇、二六七一、二六七二、二六七三、二六七四、二六七五、二六七六、二六七七、二六七八、二六七九、二六八〇、二六八一、二六八二、二六八三、二六八四、二六八五、二六八六、二六八七、二六八八、二六八九、二六九〇、二六九一、二六九二、二六九三、二六九四、二六九五、二六九六、二六九七、二六九八、二六九九、二七〇〇、二七〇一、二七〇二、二七〇三、二七〇四、二七〇五、二七〇六、二七〇七、二七〇八、二七〇九、二七一〇、二七一一、二七一二、二七一三、二七一四、二七一五、二七一六、二七一七、二七一八、二七一九、二七二〇、二七二一、二七二二、二七二三、二七二四、二七二五、二七二六、二七二七、二七二八、二七二九、二七三〇、二七三一、二七三二、二七三三、二七三四、二七三五、二七三六、二七三七、二七三八、二七三九、二七四〇、二七四一、二七四二、二七四三、二七四四、二七四五、二七四六、二七四七、二七四八、二七四九、二七五〇、二七五一、二七五二、二七五三、二七五四、二七五五、二七五六、二七五七、二七五八、二七五九、二七六〇、二七六一、二七六二、二七六三、二七六四、二七六五、二七六六、二七六七、二七六八、二七六九、二七七〇、二七七一、二七七二、二七七三、二七七四、二七七五、二七七六、二七七七、二七七八、二七七九、二七八〇、二七八一、二七八二、二七八三、二七八四、二七八五、二七八六、二七八七、二七八八、二七八九、二七九〇、二七九一、二七九二、二七九三、二七九四、二七九五、二七九六、二七九七、二七九八、二七九九、二八〇〇、二八〇一、二八〇二、二八〇三、二八〇四、二八〇五、二八〇六、二八〇七、二八〇八、二八〇九、二八一〇、二八一一、二八一二、二八一三、二八一四、二八一五、二八一六、二八一七、二八一八、二八一九、二八二〇、二八二一、二八二二、二八二三、二八二四、二八二五、二八二六、二八二七、二八二八、二八二九、二八三〇、二八三一、二八三二、二八三三、二八三四、二八三五、二八三六、二八三七、二八三八、二八三九、二八四〇、二八四一、二八四二、二八四三、二八四四、二八四五、二八四六、二八四七、二八四八、二八四九、二八五〇、二八五一、二八五二、二八五三、二八五四、二八五五、二八五六、二八五七、二八五八、二八五九、二八六〇、二八六一、二八六二、二八六三、二八六四、二八六五、二八六六、二八六七、二八六八、二八六九、二八七〇、二八七一、二八七二、二八七三、二八七四、二八七五、二八七六、二八七七、二八七八、二八七九、二八八〇、二八八一、二八八二、二八八三、二八八四、二八八五、二八八六、二八八七、二八八八、二八八九、二八九〇、二八九一、二八九二、二八九三、二八九四、二八九五、二八九六、二八九七、二八九八、二八九九、二九〇〇、二九〇一、二九〇二、二九〇三、二九〇四、二九〇五、二九〇六、二九〇七、二九〇八、二九〇九、二九一〇、二九一一、二九一二、二九一三、二九一四、二九一五、二九一六、二九一七、二九一八、二九一九、二九二〇、二九二一、二九二二、二九二三、二九二四、二九二五、二九二六、二九二七、二九二八、二九二九、二九三〇、二九三一、二九三二、二九三三、二九三四、二九三五、二九三六、二九三七、二九三八、二九三九、二九四〇、二九四一、二九四二、二九四三、二九四四、二九四五、二九四六、二九四七、二九四八、二九四九、二九五〇、二九五一、二九五二、二九五三、二九五四、二九五五、二九五六、二九五七、二九五八、二九五九、二九六〇、二九六一、二九六二、二九六三、二九六四、二九六五、二九六六、二九六七、二九六八、二九六九、二九七〇、二九七一、二九七二、二九七三、二九七四、二九七五、二九七六、二九七七、二九七八、二九七九、二九八〇、二九八一、二九八二、二九八三、二九八四、二九八五、二九八六、二九八七、二九八八、二九八九、二九九〇、二九九一、二九九二、二九九三、二九九四、二九九五、二九九六、二九九七、二九九八、二九九九、三〇〇〇、三〇〇一、三〇〇二、三〇〇三、三〇〇四、三〇〇五、三〇〇六、三〇〇七、三〇〇八、三〇〇九、三〇一〇、三〇一一、三〇一二、三〇一三、三〇一四、三〇一五、三〇一六、三〇一七、三〇一八、三〇一九、三〇二〇、三〇二一、三〇二二、三〇二三、三〇二四、三〇二五、三〇二六、三〇二七、三〇二八、三〇二九、三〇三〇、三〇三一、三〇三二、三〇三三、三〇三四、三〇三五、三〇三六、三〇三七、三〇三八、三〇三九、三〇四〇、三〇四一、三〇四二、三〇四三、三〇四四、三〇四五、三〇四六、三〇四七、三〇四八、三〇四九、三〇五〇、三〇五一、三〇五二、三〇五三、三〇五四、三〇五五、三〇五六、三〇五七、三〇五八、三〇五九、三〇六〇、三〇六一、三〇六二、三〇六三、三〇六四、三〇六五、三〇六六、三〇六七、三〇六八、三〇六九、三〇七〇、三〇七一、三〇七二、三〇七三、三〇七四、三〇七五、三〇七六、三〇七七、三〇七八、三〇七九、三〇八〇、三〇八一、三〇八二、三〇八三、三〇八四、三〇八五、三〇八六、三〇八七、三〇八八、三〇八九、三〇九〇、三〇九一、三〇九二、三〇九三、三〇九四、三〇九五、三〇九六、三〇九七、三〇九八、三〇九九、三一〇〇、三一〇一、三一〇二、三一〇三、三一〇四、三一〇五、三一〇六、三一〇七、三一〇八、三一〇九、三一一〇、三一一一、三一一二、三一一三、三一一四、三一一五、三一一六、三一一七、三一一八、三一一九、三一二〇、三一二一、三一二二、三一二三、三一二四、三一二五、三一二六、三一二七、三一二八、三一二九、三一三〇、三一三一、三一三二、三一三三、三一三四、三一三五、三一三六、三一三七、三一三八、三一三九、三一四〇、三一四一、三一四二、三一四三、三一四四、三一四五、三一四六、三一四七、三一四八、三一四九、三一五〇、三一五一、三一五二、三一五三、三一五四、三一五五、三一五六、三一五七、三一五八、三一五九、三一六〇、三一六一、三一六二、三一六三、三一六四、三一六五、三一六六、三一六七、三一六八、三一六九、三一七〇、三一七一、三一七二、三一七三、三一七四、三一七五、三一七六、三一七七、三一七八、三一七九、三一八〇、三一八一、三一八二、三一八三、三一八四、三一八五、三一八六、三一八七、三一八八、三一八九、三一九〇、三一九一、三一九二、三一九三、三一九四、三一九五、三一九六、三一九七、三一九八、三一九九、三二〇〇、三二〇一、三二〇二、三二〇三、三二〇四、三二〇五、三二〇六、三二〇七、三二〇八、三二〇九、三二一〇、三二一一、三二一二、三二一三、三二一四、三二一五、三二一六、三二一七、三二一八、三二一九、三二二〇、三二二一、三二二二、三二二三、三二二四、三二二五、三二二六、三二二七、三二二八、三二二九、三二三〇、三二三一、三二三二、三二三三、三二三四、三二三五、三二三六、三二三七、三二三八、三二三九、三二四〇、三二四一、三二四二、三二四三、三二四四、三二四五、三二四六、三二四七、三二四八、三二四九、三二五〇、三二五一、三二五二、三二五三、三二五四、三二五五、三二五六、三二五七、三二五八、三二五九、三二六〇、三二六一、三二六二、三二六三、三二六四、三二六五、三二六六、三二六

ペリス……八四
ペルル……一三〇

ヒ

日向……四六五
比叡の山……四四八
東蝦夷……三一、三七、三四、三四五
東印度商會……三八三
肥後阿蘇郡……四六五
肥前……一一〇〇
彼得堡……一〇三
ピナン……三六七
琵琶の汚……四五六
兵庫……三七、三九一
平戸……三七
備後……四五三

フ

福川常岡八幡宮……三六九
拂貢祭……六八
フランス……八四、一九三
フランス島……三六七
プルボン島……三六七

ヘ

米府……四六三
ペテルホル……九六、九七、九八、九九、一〇〇
ペテルフビエルグ……一三〇
ペトロパウロウスク港……九三
ペーリングス……一〇八
波斯……一三三
ベンガル……三四、三八〇

ホ

坊ノ津……三七
波羅泥蓮……六九

滿州市場……一四五

ミ

三崎……三七、三一
三三廐の渡……三三一
三田……三二九
三田井……四六五
水戸……四四、四六四、四九七
南若松村……九一

ム

無人島……三六
ムスコビヤ……三三五
莫斯歌未亞……三七、四三、八一
室蘭……一三五

メ

メナド……三六七

北海道……一一四
ボストン……三八三
ボデカ灣……一四四

【マ行】

マ

松橋……四六五、四六六
松前……一一、一一、一七、一一六、一一三、一一四、一一五、一一六、一一七、一一八、一一九、一二〇、一二一、一二二、一二三、一二四、一二五、一二六、一二七、一二八、一二九、一三〇、一三一、一三二、一三三、一三四、一三五、一三六、一三七、一三八、一三九、一四〇、一四一、一四二、一四三、一四四、一四五、一四六、一四七、一四八、一四九、一五〇、一五一、一五二、一五三、一五四、一五五、一五六、一五七、一五八、一五九、一六〇、一六一、一六二、一六三、一六四、一六五、一六六、一六七、一六八、一六九、一七〇、一七一、一七二、一七三、一七四、一七五、一七六、一七七、一七八、一七九、一八〇、一八一、一八二、一八三、一八四、一八五、一八六、一八七、一八八、一八九、一九〇、一九一、一九二、一九三、一九四、一九五、一九六、一九七、一九八、一九九、二〇〇、二〇一、二〇二、二〇三、二〇四、二〇五、二〇六、二〇七、二〇八、二〇九、二一〇、二一一、二一二、二一三、二一四、二一五、二一六、二一七、二一八、二一九、二二〇、二二一、二二二、二二三、二二四、二二五、二二六、二二七、二二八、二二九、二三〇、二三一、二三二、二三三、二三四、二三五、二三六、二三七、二三八、二三九、二四〇、二四一、二四二、二四三、二四四、二四五、二四六、二四七、二四八、二四九、二五〇、二五一、二五二、二五三、二五四、二五五、二五六、二五七、二五八、二五九、二六〇、二六一、二六二、二六三、二六四、二六五、二六六、二六七、二六八、二六九、二七〇、二七一、二七二、二七三、二七四、二七五、二七六、二七七、二七八、二七九、二八〇、二八一、二八二、二八三、二八四、二八五、二八六、二八七、二八八、二八九、二九〇、二九一、二九二、二九三、二九四、二九五、二九六、二九七、二九八、二九九、三〇〇、三〇一、三〇二、三〇三、三〇四、三〇五、三〇六、三〇七、三〇八、三〇九、三一〇、三一一、三一二、三一三、三一四、三一五、三一六、三一七、三一八、三一九、三二〇、三二一、三二二、三二三、三二四、三二五、三二六、三二七、三二八、三二九、三三〇、三三一、三三二、三三三、三三四、三三五、三三六、三三七、三三八、三三九、三四〇、三四一、三四二、三四三、三四四、三四五、三四六、三四七、三四八、三四九、三五〇、三五一、三五二、三五三、三五四、三五五、三五六、三五七、三五八、三五九、三六〇、三六一、三六二、三六三、三六四、三六五、三六六、三六七、三六八、三六九、三七〇、三七一、三七二、三七三、三七四、三七五、三七六、三七七、三七八、三七九、三八〇、三八一、三八二、三八三、三八四、三八五、三八六、三八七、三八八、三八九、三九〇、三九一、三九二、三九三、三九四、三九五、三九六、三九七、三九八、三九九、四〇〇、四〇一、四〇二、四〇三、四〇四、四〇五、四〇六、四〇七、四〇八、四〇九、四一〇、四一一、四一二、四一三、四一四、四一五、四一六、四一七、四一八、四一九、四二〇、四二一、四二二、四二三、四二四、四二五、四二六、四二七、四二八、四二九、四三〇、四三一、四三二、四三三、四三四、四三五、四三六、四三七、四三八、四三九、四四〇、四四一、四四二、四四三、四四四、四四五、四四六、四四七、四四八、四四九、四五〇、四五一、四五二、四五三、四五四、四五五、四五六、四五七、四五八、四五九、四六〇、四六一、四六二、四六三、四六四、四六五、四六六、四六七、四六八、四六九、四七〇、四七一、四七二、四七三、四七四、四七五、四七六、四七七、四七八、四七九、四八〇、四八一、四八二、四八三、四八四、四八五、四八六、四八七、四八八、四八九、四九〇、四九一、四九二、四九三、四九四、四九五、四九六、四九七、四九八、四九九、五〇〇、五〇一、五〇二、五〇三、五〇四、五〇五、五〇六、五〇七、五〇八、五〇九、五一〇、五一一、五一二、五一三、五一四、五一五、五一六、五一七、五一八、五一九、五二〇、五二一、五二二、五二三、五二四、五二五、五二六、五二七、五二八、五二九、五三〇、五三一、五三二、五三三、五三四、五三五、五三六、五三七、五三八、五三九、五四〇、五四一、五四二、五四三、五四四、五四五、五四六、五四七、五四八、五四九、五五〇、五五一、五五二、五五三、五五四、五五五、五五六、五五七、五五八、五五九、五六〇、五六一、五六二、五六三、五六四、五六五、五六六、五六七、五六八、五六九、五七〇、五七一、五七二、五七三、五七四、五七五、五七六、五七七、五七八、五七九、五八〇、五八一、五八二、五八三、五八四、五八五、五八六、五八七、五八八、五八九、五九〇、五九一、五九二、五九三、五九四、五九五、五九六、五九七、五九八、五九九、六〇〇、六〇一、六〇二、六〇三、六〇四、六〇五、六〇六、六〇七、六〇八、六〇九、六一〇、六一一、六一二、六一三、六一四、六一五、六一六、六一七、六一八、六一九、六二〇、六二一、六二二、六二三、六二四、六二五、六二六、六二七、六二八、六二九、六三〇、六三一、六三二、六三三、六三四、六三五、六三六、六三七、六三八、六三九、六四〇、六四一、六四二、六四三、六四四、六四五、六四六、六四七、六四八、六四九、六五〇、六五一、六五二、六五三、六五四、六五五、六五六、六五七、六五八、六五九、六六〇、六六一、六六二、六六三、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七一、六七二、六七三、六七四、六七五、六七六、六七七、六七八、六七九、六八〇、六八一、六八二、六八三、六八四、六八五、六八六、六八七、六八八、六八九、六九〇、六九一、六九二、六九三、六九四、六九五、六九六、六九七、六九八、六九九、七〇〇、七〇一、七〇二、七〇三、七〇四、七〇五、七〇六、七〇七、七〇八、七〇九、七一〇、七一一、七一二、七一三、七一四、七一五、七一六、七一七、七一八、七一九、七二〇、七二一、七二二、七二三、七二四、七二五、七二六、七二七、七二八、七二九、七三〇、七三一、七三二、七三三、七三四、七三五、七三六、七三七、七三八、七三九、七四〇、七四一、七四二、七四三、七四四、七四五、七四六、七四七、七四八、七四九、七五〇、七五一、七五二、七五三、七五四、七五五、七五六、七五七、七五八、七五九、七六〇、七六一、七六二、七六三、七六四、七六五、七六六、七六七、七六八、七六九、七七〇、七七一、七七二、七七三、七七四、七七五、七七六、七七七、七七八、七七九、七八〇、七八一、七八二、七八三、七八四、七八五、七八六、七八七、七八八、七八九、七九〇、七九一、七九二、七九三、七九四、七九五、七九六、七九七、七九八、七九九、八〇〇、八〇一、八〇二、八〇三、八〇四、八〇五、八〇六、八〇七、八〇八、八〇九、八一〇、八一一、八一二、八一三、八一四、八一五、八一六、八一七、八一八、八一九、八二〇、八二一、八二二、八二三、八二四、八二五、八二六、八二七、八二八、八二九、八三〇、八三一、八三二、八三三、八三四、八三五、八三六、八三七、八三八、八三九、八四〇、八四一、八四二、八四三、八四四、八四五、八四六、八四七、八四八、八四九、八五〇、八五一、八五二、八五三、八五四、八五五、八五六、八五七、八五八、八五九、八六〇、八六一、八六二、八六三、八六四、八六五、八六六、八六七、八六八、八六九、八七〇、八七一、八七二、八七三、八七四、八七五、八七六、八七七、八七八、八七九、八八〇、八八一、八八二、八八三、八八四、八八五、八八六、八八七、八八八、八八九、八九〇、八九一、八九二、八九三、八九四、八九五、八九六、八九七、八九八、八九九、九〇〇、九〇一、九〇二、九〇三、九〇四、九〇五、九〇六、九〇七、九〇八、九〇九、九一〇、九一一、九一二、九一三、九一四、九一五、九一六、九一七、九一八、九一九、九二〇、九二一、九二二、九二三、九二四、九二五、九二六、九二七、九二八、九二九、九三〇、九三一、九三二、九三三、九三四、九三五、九三六、九三七、九三八、九三九、九四〇、九四一、九四二、九四三、九四四、九四五、九四六、九四七、九四八、九四九、九五〇、九五一、九五二、九五三、九五四、九五五、九五六、九五七、九五八、九五九、九六〇、九六一、九六二、九六三、九六四、九六五、九六六、九六七、九六八、九六九、九七〇、九七一、九七二、九七三、九七四、九七五、九七六、九七七、九七八、九七九、九八〇、九八一、九八二、九八三、九八四、九八五、九八六、九八七、九八八、九八九、九九〇、九九一、九九二、九九三、九九四、九九五、九九六、九九七、九九八、九九九、一〇〇〇、一〇〇一、一〇〇二、一〇〇三、一〇〇四、一〇〇五、一〇〇六、一〇〇七、一〇〇八、一〇〇九、一〇一〇、一〇一一、一〇一二、一〇一三、一〇一四、一〇一五、一〇一六、一〇一七、一〇一八、一〇一九、一〇二〇、一〇二一、一〇二二、一〇二三、一〇二四、一〇二五、一〇二六、一〇二七、一〇二八、一〇二九、一〇三〇、一〇三一、一〇三二、一〇三三、一〇三四、一〇三五、一〇三六、一〇三七、一〇三八、一〇三九、一〇四〇、一〇四一、一〇四二、一〇四三、一〇四四、一〇四五、一〇四六、一〇四七、一〇四八、一〇四九、一〇五〇、一〇五一、一〇五二、一〇五三、一〇五四、一〇五五、一〇五六、一〇五七、一〇五八、一〇五九、一〇六〇、一〇六一、一〇六二、一〇六三、一〇六四、一〇六五、一〇六六、一〇六七、一〇六八、一〇六九、一〇七〇、一〇七一、一〇七二、一〇七三、一〇七四、一〇七五、一〇七六、一〇七七、一〇七八、一〇七九、一〇八〇、一〇八一、一〇八二、一〇八三、一〇八四、一〇八五、一〇八六、一〇八七、一〇八八、一〇八九、一〇九〇、一〇九一、一〇九二、一〇九三、一〇九四、一〇九五、一〇九六、一〇九七、一〇九八、一〇九九、一一〇〇、一一〇一、一一〇二、一一〇三、一一〇四、一一〇五、一一〇六、一一〇七、一一〇八、一一〇九、一一一〇、一一一一、一一一二、一一一三、一一一四、一一一五、一一一六、一一一七、一一一八、一一一九、一一二〇、一一二一、一一二二、一一二三、一一二四、一一二五、一一二六、一一二七、一一二八、一一二九、一一三〇、一一三一、一一三二、一一三三、一一三四、一一三五、一一三六、一一三七、一一三八、一一三九、一一四〇、一一四一、一一四二、一一四三、一一四四、一一四五、一一四六、一一四七、一一四八、一一四九、一一五〇、一一五一、一一五二、一一五三、一一五四、一一五五、一一五六、一一五七、一一五八、一一五九、一一六〇、一一六一、一一六二、一一六三、一一六四、一一六五、一一六六、一一六七、一一六八、一一六九、一一七〇、一一七一、一一七二、一一七三、一一七四、一一七五、一一七六、一一七七、一一七八、一一七九、一一八〇、一一八一、一一八二、一一八三、一一八四、一一八五、一一八六、一一八七、一一八八、一一八九、一一九〇、一一九一、一一九二、一一九三、一一九四、一一九五、一一九六、一一九七、一一九八、一一九九、一二〇〇、一二〇一、一二〇二、一二〇三、一二〇四、一二〇五、一二〇六、一二〇七、一二〇八、一二〇九、一二一〇、一二一一、一二一二、一二一三、一二一四、一二一五、一二一六、一二一七、一二一八、一二一九、一二二〇、一二二一、一二二二、一二二三、一二二四、一二二五、一二二六、一二二七、一二二八、一二二九、一二三〇、一二三一、一二三二、一二三三、一二三四、一二三五、一二三六、一二三七、一二三八、一二三九、一二四〇、一二四一、一二四二、一二四三、一二四四、一二四五、一二四六、一二四七、一二四八、一二四九、一二五〇、一二五一、一二五二、一二五三、一二五四、一二五五、一二五六、一二五七、一二五八、一二五九、一二六〇、一二六一、一二六二、一二六三、一二六四、一二六五、一二六六、一二六七、一二六八、一二六九、一二七〇、一二七一、一二七二、一二七三、一二七四、一二七五、一二七六、一二七七、一二七八、一二七九、一二八〇、一二八一、一二八二、一二八三、一二八四、一二八五、一二八六、一二八七、一二八八、一二八九、一二九〇、一二九一、一二九二、一二九三、一二九四、一二九五、一二九六、一二九七、一二九八、一二九九、一三〇〇、一三〇一、一三〇二、一三〇三、一三〇四、一三〇五、一三〇六、一三〇七、一三〇八、一三〇九、一三一〇、一三一一、一三一二、一三一三、一三一四、一三一五、一三一六、一三一七、一三一八、一三一九、一三二〇、一三二一、一三二二、一三二三、一三二四、一三二五、一三二六、一三二七、一三二八、一三二九、一三三〇、一三三一、一三三二、一三三三、一三三四、一三三五、一三三六、一三三七、一三三八、一三三九、一三四〇、一三四一、一三四二、一三四三、一三四四、一三四五、一三四六、一三四七、一三四八、一三四九、一三五〇、一三五一、一三五二、一三五三、一三五四、一三五五、一三五六、一三五七、一三五八、一三五九、一三六〇、一三六一、一三六二、一三六三、一三六四、一三六五、一三六六、一三六七、一三六八、一三六九、一三七〇、一三七一、一三七二、一三七三、一三七四、一三七五、一三七六、一三七七、一三七八、一三七九、一三八〇、一三八一、一三八二、一三八三、一三八四、一三八五、一三八六、一三八七、一三八八、一三八九、一三九〇、一三九一、一三九二、一三九三、一三九四、一三九五、一三九六、一三九七、一三九八、一三九九、一四〇〇、一四〇一、一四〇二、一四〇三、一四〇四、一四〇五、一四〇六、一四〇七、一四〇八、一四〇九、一四一〇、一四一一、一四一二、一四一三、一四一四、一四一五、一四一六、一四一七、一四一八、一四一九、一四二〇、一四二一、一四二二、一四二三、一四二四、一四二五、一四二六、一四二七、一四二八、一四二九、一四三〇、一四三一、一四三二、一四三三、一四三四、一四三五、一四三六、一四三七、一四三八、一四三九、一四四〇、一四四一、一四四二、一四四三、一四四四、一四四五、一四四六、一四四七、一四四八、一四四九、一四五〇、一四五一、一四五二、一四五三、一四五四、一四五五、一四五六、一四五七、一四五八、一四五九、一四六〇、一四六一、一四六二、一四六三、一四六四、一四六五、一四六六、一四六七、一四六八、一四六九、一四七〇、一四七一、一四七二、一四七三、一四七四、一四七五、一四七六、一四七七、一四七八、一四七九、一四八〇、一四八一、一四八二、一四八三、一四八四、一四八五、一四八六、一四八七、一四八八、一四八九、一四九〇、一四九一、一四九二、一四九三、一四九四、一四九五、一四九六、一四九七、一四九八、一四九九、一五〇〇、一五〇一、一五〇二、一五〇三、一五〇四、一五〇五、一五〇六、一五〇七、一五〇八、一五〇九、一五一〇、一五一一、一五一二、一五一三、一五一四、一五一五、一五一六、一五一七、一五一八、一五一九、一五二〇、一五二一、一五二二、一五二三、一五二四、一五二五、一五二六、一五二七、一五二八、一五二九、一五三〇、一五三一、一五三二、一五三三、一五三四、一五三五、一五三六、一五三七、一五三八、一五三九、一五四〇、一五四一、一五四二、一五四三、一五四四、一五四五、一五四六、一五四七、一五四八、一五四九、一五五〇、一五五一、一五五二、一五五三、一五五四、一五五五、一五五六、一五五七、一五五八、一五五九、一五六〇、一五六一、一五六二、一五六三、一五六四、一五六五、一五六六、一五六七、一五六八、一五六九、一五七〇、一五七一、一五七二、一五七三、一五七四、一五七五、一五七六、一五七七、一五七八、一五七九、一五八〇、一五八一、一五八二、一五八三、一五八四、一五八五、一五八六、一五八七、一五八八、一五八九、一五九〇、一五九一、一五九二、一五九三、一五九四、一五九五、一五九六、一五九七、一五九八、一五九九、一六〇〇、一六〇一、一六〇二、一六〇三、一六〇四、一六〇五、一六〇六、一六〇七、一六〇八、一六〇九、一六一〇、一六一一、一六一二、一六一三、一六一四、一六一五、一六一六、一六一七、一六一八、一六一九、一六二〇、一六二一、一六二二、一六二三、一六二四、一六二五、一六二六、一六二七、一六二八、一六二九、一六三〇、一六三一、一六三二、一六三三、一六三四、一六三五、一六三六、一六三七、一六三八、一六三九、一六四〇、一六四一、一六四二、一六四三、一六四四、一六四五、一六四六、一六四七、一六四八、一六四九、一六五〇、一六五一、一六五二、一六五三、一六五四、一六五五、一六五六、一六五七、一六五八、一六五九、一六六〇、一六六一、一六六二、一六六三、一六六四、一六六五、一六六六、一六六七、一六六八、一六六九、一六七〇、一六七一、一六七二、一六七三、一六七四、一六七五、一六七六、一六七七、一六七八、一六七九、一六八〇、一六八一、一六八二、一六八三、一六八四、一六八五、一六八六、一六八七、一六八八、一六八九、一六九〇、一六九一、一六九二、一六九三、一六九四、一六九五、一六九六、一六九七、一六九八、一六九九、一七〇〇、一七〇一、一七〇二、一七〇三、一七〇四、一七〇五、一七〇六、一七〇七、一七〇八、一七〇九、一七一〇、一七一一、一七一二、一七一三、一七一四、一七一五、一七一六、一七一七、一七一八、一七一九、一七二〇、一七二一、一七二二、一七二三、一七二四、一七二五、一七二六、一七二七、一七二八、一七二九、一七三〇、一七三一、一七三二、一七三三、一七三四、一七三五、一七三六、一七三七、一七三八、一七三九、一七四〇、一七四一、一七四二、一七四三、一七四四、一七四五、一七四六、一七四七、一七四八、一七四九、一七五〇、一七五一、一七五二、一七五三、一七五四、一七五五、一七五六、一七五七、一七五八、一七五九、一七六〇、一七六一、一七六二、一七六三、一七六四、一七六五、一七六六、一七六七、一七六八、一七六九、一七七〇、一七七一、一七七二、一七七三、一七七四、一七七五、一七七六、一七七七、一七七八、一七七九、一七八〇、一七八一、一七八二、一七八三、一七八四、一七八五、一七八六、一七八七、一七八八、一七八九、一七九〇、一七九一、一七九二、一七九三、一七九四、一七九五、一七九六、一七九七、一七九八、一七九九、一八〇〇、一八〇一、一八〇二、一八〇三、一八〇四、一八〇五、一八〇六、一八〇七、一八〇八、一八〇九、一八一〇、一八一一、一八一二、一八一三、一八一四、一八一五、一八一六、一八一七、一八一八、一八一九、一八二〇、一八二一、一八二二、一八二三、一八二四、一八二五、一八二六、一八二七、一八二八、一八二九、一八三〇、一八三一、一八三二、一八三三、一八三四、一八三五、一八三六、一八三七、一八三八、一八三九、一八四〇、一八四一、一八四二、一八四三、一八四四、一八四五、一八四六、一八四七、一八四八、一八四九、一八五〇、一八五一、一八五二、一八五三、一八五四、一八五五、一八五六、一八五七、一八五八、一八五九、一八六〇、一八六一、一八六二、一八六三、一八六四、一八六五、一八六六、一八六七、一八六八、一八六九、一八七〇、一八七一、一八七二、一八七三、一八七四、一八七五、一八七六、一八七七、一八七八、一八七九、一八八〇、一八八一、一八八二、一八八三、一八八四、一八八五、一八八六、一八八七、一八八八、一八八九、一八九〇、一八九一、一八九二、一八九三、一八九四、一八九五、一八九六、一八九七、一八九八、一八九九、一九〇〇、一九〇一、一九〇二、一九〇三、一九〇四、一九〇五、一九〇六、一九〇七、一九〇八、一九〇九、一九一〇、一九一一、一九一二、一九一三、一九一四、一九一五、一九一六、一九一七、一九一八、一九一九、一九二〇、一九二一、一九二二、一九二三、一九二四、一九二五、一九二六、一九二七、一九二八、一九二九、一九三〇、一九三一、一九三二、一九三三、一九三四、一九三五、一九三六、一九三七、一九三八、一九三九、一九四〇、一九四一、一九四二、一九四三、一九四四、一九四五、一九四六、一九四七、一九四八、一九四九、一九五〇、一九五一、一九五二、一九五三、一九五四、一九五五、一九五六、一九五七、一九五八、一九五九、一九六〇、一九六一、一九六二、一九六三、一九六四、一九六五、一九六六、一九六七、一九六八、一九六九、一九七〇、一九七一、一九七二、一九七三、一九七四、一九七五、一九七六、一九七七、一九七八、一九七九、一九八〇、一九八一、一九八二、一九八三、一九八四、一九八五、一九八六、一九八七、一九八八、一九八九、一九九〇、一九九一、一九九二、一九九三、一九九四、一九九五、一九九六、一九九七、一九九八、一九九九、二〇〇〇、二〇〇一、二〇〇二、二〇〇三、二〇〇四、二〇〇五、二〇〇六、二〇〇七、二〇〇八、二〇〇九、二〇一〇、二〇一一、二〇一二、二〇一三、二〇一四、二〇一五、二〇一六、二〇一七、二〇一八、二〇一九、二〇二〇、二〇二一、二〇二二、二〇二三、二〇二四、二〇二五、二〇二六、二〇二七、二〇二八、二〇二九、二〇三〇、二〇三一、二〇三二、二〇三三、二〇三四、二〇三五、二〇三六、二〇三七、二〇三八、二〇三九、二〇四〇、二〇四一、二〇四二、二〇四三、二〇四四、二〇四五、二〇四六、二〇四七、二〇四八、二〇四九、二〇五〇、二〇五一、二〇五二、二〇五三、二〇五四、二〇五五、二〇五六、二〇五七、二〇五八、二〇五九、二〇六〇、二〇六一、二〇六二、二〇六三、二〇六四、二〇六五、二〇六六、二〇六七、二〇六八、二〇六九、二〇七〇、二〇七一、二〇七二、二〇七三、二〇七四、二〇七五、二〇七六、二〇七七、二〇七八、二〇七九、二〇八〇、二〇八一、二〇八二、二〇八三、二〇八四、二〇八五、二〇八六、二〇八七、二〇八八、二〇八九、二〇九〇、二〇九一、二〇九二、二〇九三、二〇九四、二〇九五、二〇九六、二〇九七、二〇九八、二〇九九、二一〇〇、二一〇一、二一〇二、二一〇三、二一〇四、二一〇五、二一〇六、二一〇七、二一〇八、二一〇九、二一一〇、二一一一、二一一二、二一一三、二一一四、二一一五、二一一六、二一一七、二一一八、二一一九、二一二〇、二一二一、二一二二、二一二三、二一二四、二一二五、二一二六、二一二七、二一二八、二一二九、二一三〇、二一三一、二一三二、二一三三、二一三四、二一三五、二一三六、二一三七、二一三八、二一三九、二一四〇、二一四一、二一四二、二一四三、二一四四、二一四五、二一四六、二一四七、二一四八、二一四九、二一五〇、二一五一、二一五二、二一五三、二一五四、二一五五、二一五六、二一五七、二一五八、二一五九、二一六〇、二一六一、二一六二、二一六三、二一六四、二一六五、二一六六、二一六七、二一六八、二一六九、二一七〇、二一七一、二一七二、二一七三、二一七四、二一七五、二一七六、二一七七、二一七八、二一七九、二一八〇、二一八一、二一八二、二一八三、二一八四、二一八五、二一八六、二一八七、二一八八、二一八九、二一九〇、二一九一、二一九二、二一九三、二一九四、二一九五、二一九六、二一九七、二一九八、二一九九、二二〇〇、二二〇一、二二〇二、二二〇三、二二〇四、二二〇五、二二〇六、二二〇七、二二〇八、二二〇九、二二一〇、二二一一、二二一二、二二一三、二二一四、二二一五、二二一六、二二一七、二二一八、二二一九、二二二〇、二二二一、二二二二、二二二三、二二二四、二二二五、二二二六、二二二七、二二二八、二二二九、二二三〇、二二三一、二二三二、二二三三、二二三四、二二三五、二二三六、二二三七、二二三八、二二三九、二二四〇、二二四一、二二四二、二二四三、二二四四、二二四五、二二四六、二二四七、二二四八、二二四九、二二五〇、二二五一、二二五二、二二五三、二二五四、二二五五、二二五六、二二五七、二二五八、二二五九、二二六〇、二二六一、二二六二、二二六三、二二六四、二二六五、二二六六、二二六七、二二六八、二二六九、二二七〇、二二七一、二二七二、二二七三、二二七四、二二七五、二二七六、二二七七、二二七八、二二七九、二二八〇、二二八一、二二八二、二二八三、二二八四、二二八五、二二八六、二二八七、二二八八、二二八九、二二九〇、二二九一、二二九二、二二九三、二二九四、二二九五、二二九六、二二九七、二二九八、二二九九、二三〇〇、二三〇一、二三〇二、二三〇三、二三〇四、二三〇五、二三〇六、二三〇七、二三〇八、二三〇九、二三一〇、二三一一、二三一二、二三一三、二三一四、二三一五、二三一六、二三一七、二三一八、二三一九、二三二〇、二三二一、二三二二、二三二三、二三二四、二三二五、二三二六、二三二七、二三二八、二三二九、二三三〇、二三三一、二三三二、二三三三、二三三四、二三三五、二三三六、二三三七、二三三八、二三三九、二三四〇、二三四一、二三四二、二三四三、二三四四、二三四五、二三四六、二三四七、二三四八、二三四九、二三五〇、二三五一、二三五二、二三五三、二三五四、二三五五、二三五六、二三五七、二三五八、二三五九、二三六〇、二三六一、二三六二、二三六三、二三六四、二三六五、二三六六、二三六七、二三六八、二三六九、二三七〇、二三七一、二三七二、二三七三、二三七四、二三七五、二三七六、二三七七、二三七八、二三七九、二三八〇、二三八一、二三八二、二三八三、二三八四、二三八五、二三八六、二三八七、二三八八、二三八九、二三九〇、二三九一、二三九二、二三九三、二三九四、二三九五、二三九六、二三九七、二三九八、二三九九、二四〇〇、二四〇一、二四〇二、二四〇三、二四〇四、二四〇五、二四〇六、二四〇七、二四〇八、二四〇九、二四一〇、二四一一、二四一二、二四一三、二四一四、二四一五、二四一六、二四一七、二四一八、二四一九、二四二〇、二四二一、二四二二、二四二三、二四二四、二四二五、二四二六、二四二七、二四二八、二四二九、二四三〇、二四三一、二四三二、二四三三、二四三四、二四三五、二四三六、二四三七、二四三八、二四三九、二四四〇、二四四一、二四四二、二四四三、二四四四、二四四五、二四四六、二四四七、二四四八、二四四九、二四五〇、二四五一、二四五二、二四五三、二四五四、二四五五、二四五六、二四五七、二四五八、二四五九、二四六〇、二四六一、二四六二、二四六三、二四六四、二四六五、二四六六、二四六七、二四六八、二四六九、二四七〇、二四七一、二四七二、二四七三、二四七四、二四七五、二四七六、二四七七、二四七八、二四七九、二四八〇、二四八一、二四八二、二四八三、二四八四、二四八五、二四八六、二四八七、二四八八、二四八九、二四九〇、二四九一、二四九二、二四九三、二四九四、二四九五、二四九六、二四九七、二四九八、二四九九、二五〇〇、二五〇一、二五〇二、二五〇三、二五〇四、二五〇五、二五〇六、二五〇七、二五〇八、二五〇九、二五一〇、二五一一、二五一二、二五一三、二五一四、二五一五、二五一六、二五一七、二五一八、二五一九、二五二〇、二五二一、二五二二、二五二三、二五二四、二五二五、二五二六、二五二七、二五二八、二五二九、二五三〇、二五三一、二五三二、二五三三、二五三四、二五三五、二五三六、二五三七、二五三八、二五三九、二五四〇、二五四一、二五四二、二五四三、二五四四、二五四五、二五四六、二五四七、二五四八、二五四九、二五五〇、二五五一、二五五二、二五五三、二五五四、二五五五、二五五六、二五五七、二五五八、二五五九、二五六〇、二五六一、二五六二、二五六三、二五六四、二五六五、二五六六、二五六七、二五六八、二五六九、二五七〇、二五七一、二五七二、二五七三、二五七四、二五七五、二五七六、二五七七、二五七八、二五七九、二五八〇、二五八一、二五八二、二五八三、二五八四、二五八五、二五八六、二五八七、二五八八、二五八九、二五九〇、二五九一、二五九二、二五九三、二五九四、二五九五、二五九六、二五九七、二五九八、二五九九、二六〇〇、二六〇一、二六〇二、二六〇三、二六〇四、二六〇五、二六〇六、二六〇七、二六〇八、二六〇九、二六一〇、二六一一、二六一二、二六一三、二六一四、二六一五、二六一六、二六一七、二六一八、二六一九、二六二〇、二六二一、二六二二、二六二三、二六二四、二六二五、二六二六、二六二七、二六二八、二六二九、二六三〇、二六三一、二六三二、二六三三、二六三四、二六三五、二六三六、二六三七、二六三八、二六三九、二六四〇、二六四一、二六四二、二六四三、二六四四、二六四五、二六四六、二六四七、二六四八、二六四九、二六五〇、二六五一、二六五二、二六五三、二六五四、二六五五、二六五六、二六五七、二六五八、二六五九、二六六〇、二六六一、二六六二、二六六三、二六六四、二六六五、二六六六、二六六七、二六六八、二六六九、二六七〇、二六七一、二六七二、二六七三、二六七四、二六七五、二六七六、二六七七、二六七八、二六七九、二六八〇、二六八一、二六八二、二六八三、二六八四、二六八五、二六八六、二六八七、二六八八、二六八九、二六九〇、二六九一、二六九二、二六九三、二六九四、二六九五、二六九六、二六九七、二六九八、二六九九、二七〇〇、二七〇一、二七〇二、二七〇三、二七〇四、二七〇五、二七〇六、二七〇七、二七〇八、二七〇九、二七一〇、二七一一、二七一二、二七一三、二七一四、二七一五、二七一六、二七一七、二七一八、二七一九、二七二〇、二七二一、二七二二、二七二三、二七二四、二七二五、二七二六、二七二七、二七二八、二七二九、二七三〇、二七三一、二七三二、二七三三、二七三四、二七三五、二七三六、二七三七、二七三八、二七三九、二七四〇、二七四一、二七四二、二七四三、二七四四、二七四五、二七四六、二七四七、二七四八、二七四九、二七五〇、二七五一、二七五二、二七五三、二七五四、二七五五、二七五六、二七五七、二七五八、二七五九、二七六〇、二七六一、二七六二、二七六三、二七六四、二七六五、二七六六、二七六七、二七六八、二七六九、二七七〇、二七七一、二七七二、二七七三、二七七四、二七七五、二七七六、二七七七、二七七八、二七七九、二七八〇、二七八一、二七八二、二七八三、二七八四、二七八五、二七八六、二七八七、二七八八、二七八九、二七九〇、二七九一、二七九二、二七九三、二七九四、二七九五、二七九六、二七九七、二七九八、二七九九、二八〇〇、二八〇一、二八〇二、二八〇三、二八〇四、二八〇五、二八〇六、二八〇七、二八〇八、二八〇九、二八一〇、二八一一、二八一二、二八一三、二八一四、二八一五、二八一六、二八一七、二八一八、二八一九、二八二〇、二八二一、二八二二、二八二三、二八二四、二八二五、二八二六、二八二七、二八二八、二八二九、二八三〇、二八三一、二八三二、二八三三、二八三四、二八三五、二八三六、二八三七、二八三八、二八三九、二八四〇、二八四一、二八四二、二八四三、二八四四、二八四五、二八四六、二八四七、二八四八、二八四九、二八五〇、二八五一、二八五二、二八五三、二八五四、二八五五、二八五六、二八五七、二八五八、二八五九、二八六〇、二八六一、二八六二、二八六三、二八六四、二八六五、二八六六、二八六七、二八六八、二八六九、二八七〇、二八七一、二八七二、二八七三、二八七四、二八七五、二八七六、二八七七、二八七八、二八七九、二八八〇、二八八一、二八八二、二八八三、二八八四、二八八五、二八八六、二八八七、二八八八、二八八九、二八九〇、二八九一、二八九二、二八九三、二八九四、二八九五、二八九六、二八九七、二八九八、二八九九、二九〇〇、二九〇一、二九〇二、二九〇三、二九〇四、二九〇五、二九〇六、二九〇七、二九〇八、二九〇九、二九一〇、二九一一、二九一二、二九一三、二九一四、二九一五、二九一六、二九一七、二九一八、二九一九、二九二〇、二九二一、二九二二、二九二三、二九二四、二九二五、二九二六、二九二七、二九二八、二九二九、二九三〇、二九三一、二九三二、二九三三、二九三四、二九三五、二九三六、二九三七、二九三八、二九三九、二九四〇、二九四一、二九四二、二九四三、二九四四、二九四五、二九四六、二九四七、二九四八、二九四九、二九五〇、二九五一、二九五二、二九五三、二九五四、二九五五、二九五六、二九五七、二九五八、二九五九、二九六〇、二九六一、二九六二、二九六三、二九六四、二九六五、二九六六、二九六七、二九六八、二九六九、二九七〇、二九七一、二九七二、二九七三、二九七四、二九七五、二九七六、二九七七、二九七八、二九七九、二九八〇、二九八一、二九八二、二九八三、二九八四、二九八五、二九八六、二九八七、二九八八、二九八九、二九九〇、二九九一、二九九二、二九九三、二九九四、二九九五、二九九六、二九九七、二九九八、二九九九、三〇〇〇、三〇〇一、三〇〇二、三〇〇三、三〇〇四、三〇〇五、三〇〇六、三〇〇七、三〇〇八、三〇〇九、三〇一〇、三〇一一、三〇一二、三〇一三、三〇一四、三〇一五、三〇一六、三〇一七、三〇一八、三〇一九、三〇二〇、三〇二一、三〇二二、三〇二三、三〇二四、三〇二五、三〇二六、三〇二七、三〇二八、三〇二九、三〇三〇、三〇三一、三〇三二、三〇三三、三〇三四、三〇三五、三〇三六、三〇三七、三〇三八、三〇三九、三〇四〇、三〇四一、三〇四二、三〇四三、三〇四四、三〇四五、三〇四六、三〇四七、三〇四八、三〇四九、三〇五〇、三〇五一、三〇五二、三〇五三、三〇五四、三〇五五、三〇五六、三〇五七、三〇五八、三〇五九、三〇六〇、三〇六一、三〇六二、三〇六三、三〇六四、三〇六五、三〇六六、三〇六七、三〇六八、三〇六九、三〇七〇、三〇七一、三〇七二、三〇七三、三〇七四、三〇七五、三〇七六、三〇七七、三〇七八、三〇七九、三〇八〇、三〇八一、三〇八二、三〇八三、三〇八四、三〇八五、三〇八六、三〇八七、三〇八八、三〇八九、三〇九〇、三〇九一、三〇九二、三〇九三、三〇九四、三〇九五、三〇九六、三〇九七、三〇九八、三〇九九、三一〇〇、三一〇一、三一〇二、三一〇三、三一〇四、三一〇五、三一〇六、三一〇七、三一〇八、三一〇九、三一一〇、三一一一、三一一二、三一一三、三一一四、三一一五、三一一六、三一一七、三一一八、三一一九、三一二〇、三一二一、三一二二、三一二三、三一二四、三一二五、三一二六、三一二七、三一二八、三一二九、三一三〇、三一三一、三一三二、三一三三、三一三四、三一三五、三一三六、三一三七、三一三八、三一三九、三一四〇、三一四一、三一四二、三一四三、三一四四、三一四五、三一四六、三一四七、三一四八、三一四九、三一五〇、三一五一、三一五二、三一五三、三一五四、三一五五、三一五六、三一五七、三一五八、三一五九、三一六〇、三一六一、三一六二、三一六三、三一六四、三一六五、三一六六、三一六七、三一六八、三一六九、三一七〇、三一七一、三一七二、三一七三、三一七四、三一七五、三一七六、三

モ

モスクワ……九七、一〇〇
莫斯科……一〇二
モスコビヤ……七七、七八、七九、八八
紅葉山……四九九
モルツカス……三八七
唐山……三〇、三二、三三、四二、三八一

【ヤ行】

ヤ

ヤカウツカ……一〇一
ヤコウツカ……九五、九六
山鹿……四八一
山中……五九、四九九
ヤルクーツク……九四、九五

ユ

ユウフツ……一四六

【ラ行】

リ

琉球……二四、四一、一五七
リイシリ島……二七一、三〇九

ル

ルウタカ……三〇九
呂宋……一九九
ルベツ……二六二、二六三

レ

レニングラード……九六

ロ

魯西亞……六八
露西亞國……九三、一三三
ロンドン……八四、一四六

昭和二年九月七日印刷
昭和二年九月十日發行

近世日本國民史
幕府分解接近時代奥付
定價金貳圓五拾錢

不許複製

著者　德富猪一郎

發行兼印刷者　東京市京橋區日吉町　渡邊爲藏

印刷所　東京市京橋區日吉町　民友社

發行所　東京市京橋區日吉町　民友社

振替口座東一三一〇〇

民友社出版圖書目錄

東京市京橋區日吉町
振替東京一三一〇〇

蘇峰　德富猪一郎著

近世日本國民史

特色本領の一二

◆**歴史講究熱勃興**　自國を知れ、國史に返れとは蘇峰先生の警語だ。當今の社會に歴史講究熱が、蓊然として興つて來たのは、邦家前途の爲め慶賀に堪へぬ。これは『近世日本國民史』の刺戟の力、與つて大に居るとは、朝野識者が萬口一聲の批判である。

◆**獨闢創造の歴史**　近世日本國民史は、其の材料の精確詳審であるのみならず、成る可く前人の功を沒せざる爲めに其の史實を採用するのみならず、其の歴史的人物、若くは人物に關係ある權威者をして自ら語らしめてゐる。併し若し國民史が、單に古書の拔書と思ふものあらば、それは大な。見當違ひだ。國民史は著者の獨闢であり、創造である。

◆**胸中の一大樓閣**　著者は胸中に一大樓閣ありて、其の資料に古人を使用する迄で、この偉大なる國民史は、著者の匠心獨造である。而してこの大建築は、實に大正の御代を象徴す可き一大偉觀であるのみならず、帝國文献の有する曠古の一大産物である。

◆**特色は綜合大觀**　一室には一室の用があり、一階には一階の用がある。然も其の特色は、之を綜合大觀せねばならぬ。蘇峰先生の國民史、亦如此耳。併し國民史を以て、單に世の所謂る歴史と同一視するは、大なる間違だ。歴史は歴史だが、從來の歴史とは、全く其の本領、面目、趣向を異にしてゐる。眞に血の通つた活きた歴史だ。

◆**時代潮流の活描**　それは著者は一方に人を見、一方に勢を見。一方に心を見、一方に肉を見。一方に思想を見、一方に生活を見。而して兩者が社會を經緯して、時代の潮流に從て動く情態を描き且つ叙し、且つ論ずるからである。これ從來の史書に見る能はざる特徴の一だ。

◆**秩序的百科字彙**　されば國民史は、近世日本のあらゆる寶庫だ。政治でも、經濟でも、文學でも、宗教でも、美術でも、哲學でも、風俗でも、商業でも、工業でも、農業でも、世の中の森羅萬象、殆ど悉く其の大綱大要を囊括して漏らす所がない。されば國民史を以て、秩序的の近世日本百科字彙と云ふも妨げまい。

近世日本國民史

織田氏時代篇	前	本篇は近世日本國民史の最源頭をなすもので、筆を室町幕府の末期に起し、其の衰亡に止めてある。是れ眞に信長の勃興より、覇業創始時代の記錄である。	
織田氏時代篇	中	本篇は信長が、名實共に時代の主人公となり、鋭意努力の時代を叙述したるもので、長篠戰爭を始め、安土城の經營、毛利氏との關係、丹波方面の手入れ等に至る。	
織田氏時代篇	後	本篇は信長が最活動最得意の時代を叙述したもので、武田氏の滅亡、信長父子の死等を描き、最後に經世的英雄たる信長の全體を顯現したるものである。	
豐臣氏時代篇	甲	本篇は秀吉の素生と、其の出身に筆を起し、然る後織田氏時代に接續して、秀吉の創業時代を叙述したもので、一代の英雄秀吉の立志傳と謂ふべきもの。	
豐臣氏時代篇	乙	本篇は秀吉が五十一歳から、五十三歳に至る最も油の乘りたる期間の記錄で、彼が日本統一の事業を完成の域に進めた秀吉の生涯中最得意の時代である。	
豐臣氏時代篇	丙	本篇は秀吉の國内的政務の落著を示すもので、北條氏退治を骨子として、東北の平定、家康の移封の他に、我使節の羅馬入りの如き、奇觀として注目に値する。	

上製　菊判　定價　各五圓　送料　各十錢
並製　四六判　定價　各三圓　送料　各十二錢

近世日本國民史

豐臣氏時代丁篇
朝鮮役 上卷

本篇は前人未見の史料に據り、著者の最も精力を傾注したる一で、大和民族の海外葛藤より、秀吉の外征、行長の平壤入り、其他日本軍制海權の失墜に終る。

豐臣氏時代戊篇
朝鮮役 中卷

本篇は朝鮮役に於ける日明外交史とも謂ふべきもので、朝鮮が明の救援を請ふに始まり、明の神宗皇帝が秀吉を日本國王に封ずるに終り、日明兩軍の遭遇戰あり。

豐臣氏時代己篇
朝鮮役 下卷

本篇は朝鮮役の總勘定とも謂ふべきもので、講和評定の經緯より其の實行期に入り、秀吉の死と日本軍の總撤退に至り、關白秀次の破滅秀頼の成立を叙す。

豐臣氏時代庚篇
桃山時代概觀

本篇は日本歴史に、磨滅すべからざる華麗絢爛たる文化の一時期を劃した、桃山時代の多趣多様、各種各方面に亙る特色を選び、其の概觀を描く。

家康時代上卷
關原役

本篇は天下の名實德川氏に歸し、遂に大阪冬陣夏陣の開始となり大阪城陷り豐臣氏全く亡ぶるの狀を叙したもので、眞に沙翁の史悲劇以上の史的興味ある讀物。

家康時代中卷
大阪役

本篇は家康の人物と、其の一生の事功とを精審に叙述したもので、德川幕府施政の根本義に始り、家康の臨終に至るまでを記述す。眞に是れ完全な家康論。

上製 菊判 定價 各五圓 送料 各八十錢
並製 四六判 定價 各三圓 送料 各十二錢

近世日本國民史

家康時代下卷
家康時代概觀

本篇は家康の人物と、其の一生の事功とを精審に叙述したもので、德川幕府施政の根本義に始り、家康の臨終に至るまでを記述す。眞に是れ完全な家康論。

德川幕府上期上卷
鎖國篇

本篇は鎖國政策に關聯した內外一切の出來事を、豐富なる材料と精嚴なる史筆とに因りて、論斷し叙述したもので、島原役の顚末等をも記述す。

德川幕府上期中卷
統制篇

本篇の眼目は、幕府對朝廷關係の記述で、朝幕衝突を始め、諸大名改易、親藩連枝處置の顚末の如き、最も幕府の醜惡を抉出し、一面幕政人材史を作す。

德川幕府上期下卷
思想篇

本篇は尊王及び國體の思想の胚胎と、發達の來歴を記述したもので、殊に水戸光圀に關しては特筆大書し、由比正雪の叛逆の顚末をも精細に叙述す。

元祿時代上卷
政治篇

本篇は幕府が絶對威力を、如何に政治方面に實現したかを記述すると共に、綱吉公、桂昌院、堀田、柳澤等の人物を批判し、時の後光明天皇の御事をも記載す。

元祿時代中卷
義士篇

本篇は赤穗義擧事件の記述で、單に興味中心を目的とせず、其の原因を究め、世論を批判し、獨特の觀察の下に成る眞の義士觀である。

上製 菊判 定價 各五圓 送料 各八十錢
並製 四六判 定價 各三圓 送料 各十二錢

近世日本國民史

元祿時代下卷	世相篇	本篇は元祿時代に生めた各方面の代表的人物と、其の業蹟を記述したもので、瑞賢、奈良茂、辰五郎等の實業家や、西鶴、近松、芭蕉、狩野、英、等を列擧す。	上製 四六判 定價 各各二十圓 送料 各各十錢
元祿享保中間時代		本篇は家宣、家繼の短期時代に於て、新井白石が如何に活政治を運用したかを精叙すると共に、羅馬人シドッチの渡來、江島事件等を特筆大書して概觀に及ぶ。	上製 四六判 定價 五十圓 送料 八十錢
吉宗時代		本篇は桃園天皇を中心としたる、攝家對平ら公家の葛藤、竹內式部、山縣大貳の二大事件を詳述し、國典研究が自から幕府倒壞の因を釀生したるを發象す。	上菊並 製判 定價 三十圓 送料 二十錢
寶曆明和篇		本篇は德川幕府の謎の時と云はれる田沼時代に向つて嚴正なる批判を下したるものであつて、田沼意次の人物を詳細に解剖し、蘭學興隆を物語り、上杉鷹山の劇的場面に及ぶ。	上菊並 製判 定價 四圓 送料 二十錢
田沼時代		本篇は德川家齊時代に於ける幕府の危機より筆をおこし、時の老中松平定信を中心として當時の諸相を評述批判し、就中光格天皇の尊號宣下事件を解剖論評した點本書特獨。	上菊並 製判 定價 四圓 送料 二十錢
松平定信時代			

日本國民史	近世史	幕府分解接近時代	本書は德川十一代將軍家齊時代、卽ち人物と金との拂底のため自から幕府の崩壞する勢を解き、外國船の接近に國防論尊王攘夷論の湧出を述べる。
德富猪一郎	蘇峰	西鄉南洲先生	斯書が刊行せらるゝや天下の大歡迎は期せずして注がれ、忽ち十七版を突破し、尙陸續として註文殺到す。以て本書の眞價を知るべきである。
財團法人 青山會館編纂		南洲先生遺墨集	一卷を開かば天挺の大人豪の風丰躍如として咫尺の間に拜し無限の大敎訓を拜受し得べく現下の我國情に鑑み尤敎興德の源泉である。
		甲東先生遺墨集	

雄藩篇	近刊		
大久保甲東先生	近刊		
		四六判 價 六、〇〇 送 四、〇〇	
		百三十點 價 拾五、〇〇 送 一、〇〇	

(上製)價 五、〇〇 送 一、八
(並製)價 二、五〇 送 一、二

蘇峰　德富猪一郎　著

天覽台覽　久邇大宮殿下より本書嘉稱の玉詠漢詩御下賜

國民小訓

附錄＝涵情養氣集

（文部省認定）

忠君愛國の護符、憲政數義の絶好讀本、眞に國民覺醒の教訓書。附錄に和歌八十首、漢詩九十絶を收む。孰れも國民の志氣を振作するの隨一資糧。日夕諷誦の絶好伴侶。

菊判並製　二四〇頁　奉仕的廉價　價、八〇　送、〇八

縮刷國民小訓

「國民小訓」愛讀者諸氏の熱誠なる御要求に應じ、携提に便にして而かも簡西なる縮刷版。

四六判　價、〇五　送、〇六

家庭小訓

改訂（文部省認定）

家庭の實用的心得を示したもので家庭や女學校に備ふべき書。

菊判並製　價、〇五　送、〇六

處世小訓

改訂（文部省認定）

如何にして世に處すべきかを平易に說いたもので、實に出世の好指針。

菊判並製　價、〇五　送、〇六

民友社編輯部編纂

國民小訓字解

家庭小訓字解

處世小訓字解

何れも出來るだけ精確丁寧に字解を附し、著者述作の精神の諒解に努む。

價、三〇　送、〇四

價、二五　送、〇二

價、二五　送、〇二

蘇峰　德富猪一郎　著

大正の青年と帝國の前途

日本帝國の使命遂行と、國民の覺悟とに就て、大正の青年の精神元氣を、鼓舞作興した國運興隆の指針。

三六判上製　價、二〇〇　送、一二〇

時務一家言

改版

蘇峰先生の思想經綸の大經大綱を說示した書で、其生命を打込み、熱血を注ぎたる述作言論の精粹。

四六判上製　價、二〇〇　送、八〇

大和民族の醒覺

日米問題に關して、蘇峰先生が幾多の醒覺を力說された警告書で、同胞諸君の自奮を促がす必讀書。

四六判上製　價、二〇〇　送、一〇〇

三十七八年役と外交

日本國民の血を湧かした、三十七八年役の外交機密を、當時衆議に參與した著者が公平に批判し、赤裸に暴露した世界的奇書。

四六判上製　價、一〇〇　送、八〇

精神の復興

蘇峰文抜萃

如何にして國民的精神を興隆し、實力を養成すべきかを啓示した、愛國的熱誠の溢れたる精神復興の指針。

四六判並製　價、二〇〇　送、一五〇

政界の革新

清浦內閣を中心として一世を震駭したもので政界の革新を絶叫した活文字。

菊半截　價、五〇〇　送、二〇〇

吉田松陰

改版

維新改革時代の代表的人物たる松陰の眞傳として、唯一なる獨特の權威を有す。青年諸君の一讀を待つ。

四六判上製　寫眞筆入　價、二〇〇　送、一二〇

靜思餘錄

改版

蘇峰先生の廿五歲より卅二歲に至る時代の精神的結晶品で、最も用筆の韻致に富み感興不盡の名著。

三六判上製　價、二〇〇　送、八〇

烟霞勝遊記

還曆記念出版

上卷　下卷

蘇峰先生興味饒き勝遊の產、多彩なる名勝記、又胸底湧出の印象記で、足跡北海道より滿鮮に達る。感興不盡、紀行文の隨一、旅行の好伴侶。

風景人物寫眞二百余入　價各三、五〇　送一二〇

蘇峰　德富猪一郎

蘇峰隨筆
先生の學問、識見、趣味、修養、好尚、即ち全人格が最も鮮明に發揮せられたもの。自然、人事、群籍、思索の隨感隨錄、風趣橫溢。
四六判上製　四五〇頁　送價二、五〇〇

第二蘇峰隨筆
概れ震災後の起稿で、從つて記述眞劍味多く、讀者の感興を惹くこと深し。其の孰れにも先生獨特の觀察識見あり。隨筆の絕好。
四六判上製　四四〇頁　送價二、五〇〇

第一人物隨錄
獨特の眼孔筆致を以て、東西古今の人物を捉へ來りて、能く其の眞を傳ふ。著者が『書くことを禁じ得ざる刹那に於て書いた』ところに本書の眞價がある。
四六判上製　四六〇頁　送價二、五〇〇

野史亭獨語
本書は蘇峰先生が湘南逗子の野史亭に於て、修史の餘課產み出したる隨感隨筆六十四題を收む。其の題目內容の豐富なる、記述の精明淨潔なる、讀者叩くに從ひて、大小の響之れに應ずるの妙がある。
四六判上製　高雅本　送價二、〇〇〇

賴山陽
賴山陽は著者幼少の頃から、愛好傾倒した人物の一だ。本書は三十余年の間博搜した資料と研究した識見とを以て、大處より大觀した山陽の全面目躍如。
本書は弘く江潮の所藏を探求して得たるもの、嚴密なる考證研究の下に、年代順に分類編纂したるもの。自ら山陽自叙傳を大成した空前の產物。
菊判上製　定價四、八〇〇　送料一八〇

賴山陽書翰集（上下）
德富猪一郎　木崎愛吉　光吉元次郎　共編
本書は蘇峰先生が湘南逗子の野史亭に於て、修史の餘課產み出したる隨感隨筆六十四題を收む。其の題目內容の豐富なる、記述の精明淨潔なる、讀者叩くに從ひて、大小の響之れに應ずるの妙がある。
四六判上製　二、六〇〇頁　送價一八、〇〇〇

幕府衰亡論
故櫻痴居士　綱地源一郎　蘇峰學人序
改版
著者は世界を家として、足跡渾球に普し。本書は南北中米十二ケ國、三萬七千餘哩の視察歷遊の記。山川風物を活寫し、海外發展國策の經綸を絕說する快著。
菊判地圖寫眞十數葉入　送價三、五〇〇
四六判並製　送價一、五〇〇

西半球を巡りて
井上雅二　蘇峰學人序
萬人の胸に欲する魅力ある本書は、實に現今に至るまで、其の需要は出版界の記錄を破る。精彩ある自然と人生のスケッチを見よ。
菊半截並製　送價一、六〇〇

農村問題四名著

德富蘆花　健次郎

自然と人生
改版
讀書界の視聽を集めた本書は、津々浦々にまで知られた武男と、浪子を中心とした悲愴な物語で、何人も一度は手にすべき不朽の名篇。
四六判美本　送價一、〇〇〇

不如歸
改版　小說
著者の初期の傑作で、主人公の幼時よりの運命の曲折と、生存の惱みと、無愛の歡喜と、結婚の幸福を描いた長編小說。
三六判布裝美本　送價二、〇〇〇

思出の記
改版　小說
本書を一度繙けば世界古今の名婦を一堂に寨めて相語るの思ひがある。古の名婦の跡をたづね現今の名婦の事業と人物を知るは女性そのものゝ眞價を知ることである。
四六判美本　送價一、〇〇〇

名婦鑑
改版
本書は各方面より見たる農村生活の改善等を實際の例を擧げて、極めて面白く平易に論述したる近來の快著。
四六判並製　送價四六〇

農學博士　小野武夫
村の辻を往く
米國問題、小作爭議、農村生活の改善等、其他農村に於ける現代の政治、經濟、社會上多くの問題を實際より研究した良書。
四六判並製　送價四六〇

農學博士　中島九郎　述
現時の農村問題
世界的唯一の模範たる丁抹の農村と教育とを設けて農村問題解決の鍵にして、國富增進の典型を明示したる利用厚生の好指針。
四六判美本　送價二、〇〇〇

フオート博士原著　水野常吉譯
丁抹の農村と其の教育
斯界の世界的權威者たる博士が、先年來朝の際、我が農村問題の解決に一大刺戟を與へられたる農村及び教育問題の講演集。
四六判並製　送價八〇

フオート博士　述
農村問題講演
明治類題の句集で、題目の豐富、句數の多饒なることを特色とせる斯界の良書。子規居士の監修に高き識見を覗ふべし。
四六判美本　送價一、〇〇〇

正岡子規　監修
新俳句

國民教育奬勵會編

現代文化と教育
故厨川博士、深田博士、阿部帝大教授、菅原博士、上野帝大講師、澤柳博士、入澤帝大教授等の文化教育の講演集にして、絶好の必讀書。
四六判 一、五〇八 送價

修身科
師範大學講座第一輯
本會新設講座の第一回講演筆記である。理論と實際の兩方面から說いた修身科の研究。教育者諸君補習用の絶好書。
菊判 二、三八〇頁 一、八〇八 送價

宗教科
師範大學講座第二輯
神教、佛教、基督教、儒教即ち世界四大宗教の眞髓を四大家が最も平易に叙したるもの。今まで求めて得られざりし書。
菊判 三〇〇頁 一、〇〇八 送價

文學博士 澤柳政太郎編
現代教育の警鐘
本書は我國唯一の實際教育の研究學校たる所の成城小學校の苦心經營と十ケ年努力とを披瀝せしもの。天下教育改造の警鐘である、
菊判 一、八〇一二 送價

英 バイウオーター原著 敏一譯述
太平洋戰爭
日米關係未來記
日米將來の謎を解き、且つ語る稀有の快書にして、日米の將來を知らんと欲するものは是非一讀あれ。
四六判 一、〇六〇 送價

國民新聞編輯局編
重大なる結果
對米問題研究
諸名士の講演筆記を基として、金子子爵の長論文を加へた、對米問題の研究書。
四六判 一、五〇六 送價

同政治部編
普通選擧早わかり
普通の內容を平易に、親切に解說したもので參考資料をも收めた類書中の覇王。
小形美本 三〇二 送價

下位春吉述
ファッショ運動
伊太利國民運動に參加した著者の講演筆記で愛國運動振りが如何に躍如たるかを見よ。
菊判 半截 五四〇 送價

鷄友會編
齋閥實傳
大倉鶴彦翁
實業界の大立物として、一世の快男兒たる翁が、裸一貫から今日の大成功をした絶好の立志篇。
菊判 上製 金美本 三、五八〇 送價

駒井元子院長
家庭向物尺いらず型紙いらず坂井式洋服裁縫
（小供婦人服の卷）
一讀すれば直ぐ小供服婦人服が誰れにでも出來る重寶な書
菊判 美本 二、五〇一二 送價

384
43

落